

7
2
75

明治十五年七月出版

問答
新法附典類纂
附典類纂

京都
鹿雲堂鑄印

036070-000-9

CZ-711-029

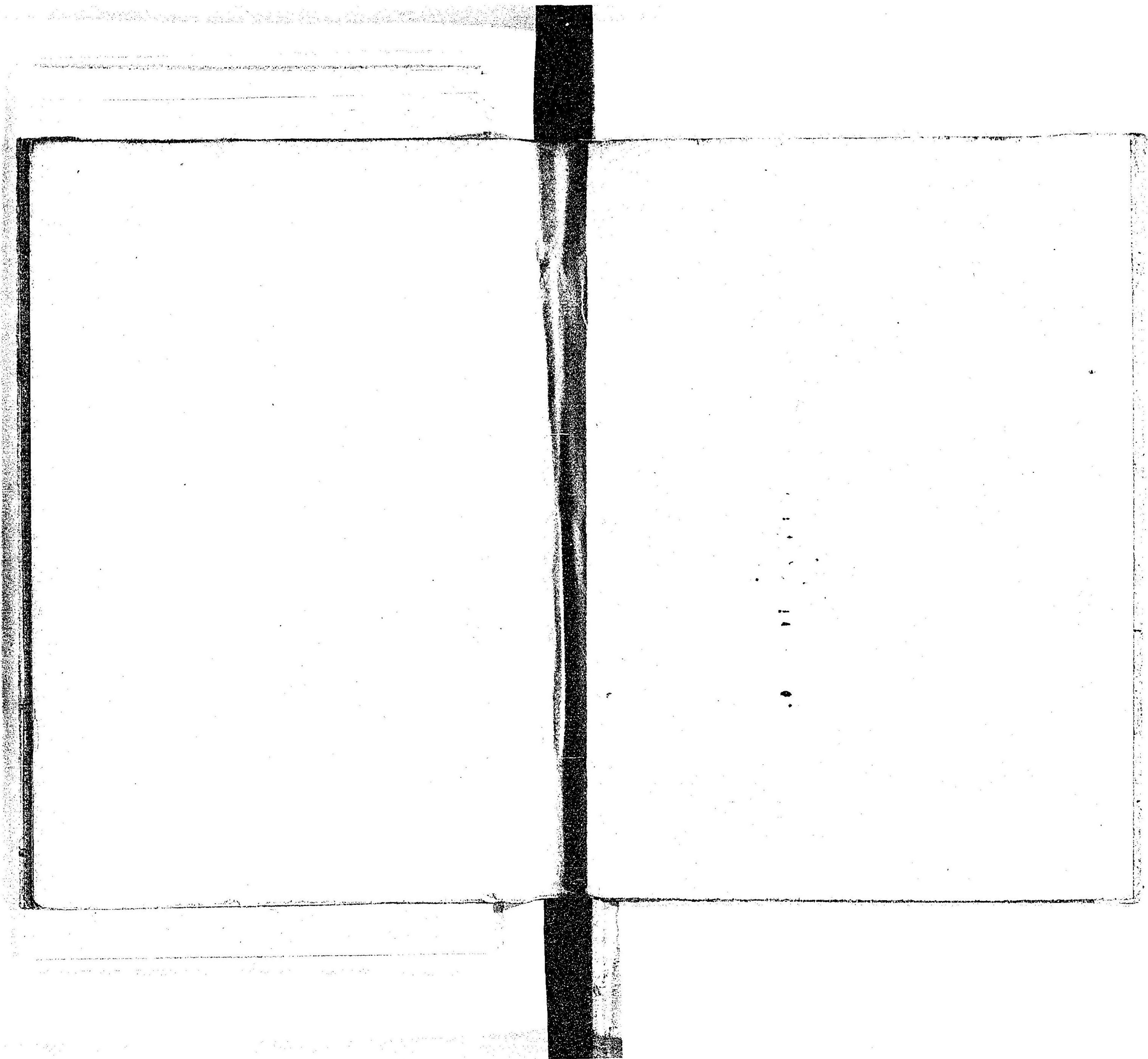
新法附典類纂

大島 細吉 / 編

M15

BBP-0698





特 66
8/13

明治十五年六月出版

問答
註釋
新法阿毘曇纂
附
監
獄
則

京都

龍雲堂發行

C2
74
029

註釋刑法治罪法附典

目錄

布告之部

太政官第六拾七號

刑法附則制定及施行日期

第一章

主刑執行

第二章

監視

第三章

假出獄及特別監視

第四章

刑事裁判費用

第五章

賠償處分

同 第六拾貳號

密賣油、販賣懲罰當分、內從前、通地方官委任、專

同 第六拾四號

明治十年拾三號府廳、條規二連也、布告廢止期限、專

同 第七拾貳號

刑法施行二付法律規則中罰則ニ係ルモノ、處所方、專

同 第八拾壹號

刑法中新舊比照、專

○

同 第四拾五號	同 第四拾六號	同 第四拾七號	同 第四拾八號	同 第八拾號	同 第五拾三號	同 第五拾四號	同 第五拾五號	同 第五拾六號	同 第五拾七號	同 第五拾九號	同 第七拾壹號	同 第七拾三號
遺警罪ノ審判ニ關スル手續云々ニ付 上告ヲ許サズルノ事	公訴私訴ニ係ル控訴上告及ヒ 証人呼出費用等ノ事	治罪法第七十四條審判送時區 以下六項實施法ヲ定ム	刑事裁判所ニ於テ被告人ヲ 責務スル手續ノ事	遺警罪裁判 執行書ノ事	十四年第四十八号 布告改正ノ事	各裁判所位置及ヒ管轄區畫 改正并施行期限ノ事	新法實施ニ付當分 經學裁判ノ開庭手續ヲ定ム	治罪法第七十三條末文以下 陪席判事補充裁判事ノ指定方ノ事	小笠原島 裁判事務ノ事	伊豆國七島 裁判事務ノ事	治罪法中勾引セシメタル 被告人夜間留置場ノ事	經學裁判所ヲ開シ時當分 審判ヲ檢事ノ代理ヲ定メ 無能力者代人及ヒ 民事檢事人ト稱スル者ノ事

同 第七拾四號	同 第七拾六號	同 第七拾七號	同 第七拾八號	同 第七拾九號	同 第八拾貳號	同 第八拾三號	同 第八拾壹號	同 第七號	諸達之部	太政官第七拾七號	同 第八拾貳號	同 第八拾六號
治罪法中刑事ノ控訴ニ關スル 條件ハ當分ノ內實施七ノ十二月廿八日	裁判所名稱區畫表 始審行中別除合併ノ事	治安裁判所ニ於テ 輕罪裁判所開庭ニ付場所ノ事	重罪裁判所管轄區畫ヲ定メ 十五年一月一日ヨリ實施ノ事	北海道并沖繩縣ハ當分徒前ノ通 於其官廳裁判事務執行ノ事	大審院各裁判所ニ於テ 審理ニ着手ノ刑事處分ノ事	治安裁判所始審裁判所ノ 權限制定ノ事	治罪法第三百八十一條 第一項ニ變則ノ事	治罪法中海上路程ノ 猶取割合ノ事	諸達之部	遺警罪執行ノ節ハ 主務省ニ可届出ノ事	司法官吏ヨリ速查及ヒ 兵員要索使用ノ節手續ノ事	治罪法實施ニ付訟廷取調ノ爲メ 延置押丁ニ看護セシムルノ事

同 第 拾 號

囚人護送手續及ヒ
送方改正并施行日ノ事

司法省甲第五號

司法警察事務上時宜ニヨリ
巡查ノ警報ノ代理ヲ命スルノ事

同 丙第十三號

司法警察事務上時宜ニヨリ巡查ヲ
警報ノ代理ヲ命スルノ事

同 丁第十八號

書記局其他訟廷等ノ
業務心得ノ事

同 甲第七號

裁判官及ハ其被書ヲ
求ムル者用代價ノ事

同 甲第八號

大審院裁判所々屬
代官人規則ヲ定ムル事

同 丙第拾五號

豫審判事檢証及ヒ
物件差押ノ事ニ付取計方

同 丙第拾六號

犯人証人等押印ノ條々
實印無之者ニ捺印法ノ事

同 丁第廿五號

罰金科料裁判費用及ヒ
沒收物品徴収方ノ事

同 丁第廿六號

使丁規則ヲ制定シ
並實施期限ノ事

同 丁第廿七號

治安裁判所ニ輕罪裁判所
開設ノ節名稱印影難形ヲ定ム

同 丁第廿八號

送達書呼出日換引勾留収監ノ
五状及ヒ直書書式ヲ定ム

同 丁第三十號

裁判所印章ノ改正期日
並ニ難形ヲ示ス

同 丁第三拾壹號

裁判官及ハ被書者
求ムル者代價徴収區分ノ事

同 丙第拾九號

警備署ニテ審判ノ違警罪事件表及ヒ
既決犯罪表ノ事

同 丁第三拾三號

刑事裁判所言及ヒ犯人ノ本籍
通知及ヒ犯人前科取調心得方

同 丁第三拾四號

治罪法中表式ヲ定ム
及ヒ調成方ノ事

同 丙第二拾號

新法實施後既決囚徒走者ノ
令状發遣心得方ノ事

同 丁第五號

刑事裁判統計表調製
豫審事件記載差出方ノ事
(明治十五年)

同 丙第壹號

刑事裁判統計表調製
豫審事件記載差出期限ノ事

同 丁第八號

十四年丁第三十四號
違中改正ノ事

同 丁第九號

裁判官及ハ被書者
求ムル者代價徴収金納付方ノ事

同 丁第拾號

諸裁判ノ
訴訟受理區別方ノ事

同 丙第貳號

丙第壹號送中
何違警罪裁判所ノ書式ノ事

同 丁第拾壹號

重罪裁判所
印章難形ノ事

同 丁第拾貳號

判事檢事出京ノ節
判任官ノ應行相成ヲ示スル事

同 丙第三號

處刑ノ看犯由揭示改正

同 丙第四號
同 丙第五號
同 丁第拾三號

勾引狀/期限/專

檢察官ニテ裁判所ノ命令及ヒ
言派書ノ謄本ヲ受ケル時交官方
刑事件教記裁方書式ノ專

拾遺

太政官第十四號布告

同 第十六號

日開拓使ニテ反投ノ裁判事務
自今司法裁判所管理ノ專
押入集治監ノ囚人
犯罪アル片處分方ノ專

司法省丙第六號御達

同 丙第七號

既決囚ノ逃走者ニ對シ
逮捕狀ヲ發スル手續ノ專

被告人逮捕ノ地檢察官犯罪地ノ檢察官ニ
照會中勾留ノ同一内訓ノ專

同 丙第八號

裁判官ニ送達ノ專

同 丙第九號

帶執者犯罪公推ヲ糾奪停止ノ時
處分方處出ノ專

同 丁第拾四號

治罪法第百三十五條ニ依リ
人担書及ヒ逮捕狀作爲ノ專

同 丁第拾五號

人民ヨリ郡區戸長ニ對スル
詞訟一切ノ書類送付スルノ專

○
內務省乙第拾九號

監視票添卷書式
ヲ定ムル專

同 乙第二拾號

人民呼出狀脚夫ノ賃錢及ヒ
喚問費賃銀等不成立ノ專

司法省丙第拾號

調書作爲ノ警察官
証人トスル取扱方ノ專

同 丙第拾壹號

勒任及ヒ委任官筆跡帶執
有印ノ者犯罪處分ノ專

同 丙第拾二號

裁判官及ヒ謄本并ニ拔書ノ
費用徴收區分ノ專

同 丙第拾三號

軍人軍屬犯罪處分方御裁令ニ付
當人ニ付テモ右ニ照準ノ專

同 丙第拾四號

既決囚ノ逃走者ニ對シ
發スル令狀ノ專

同 丙第拾五號

府縣限リ布令ノ條例管内
裁判所ノ通牒並屆出方ノ專

同 丙第拾六號

發賣沒收
處分方ノ專

同 丁第拾七號

軍人軍屬ノ犯罪未決中逃走ノ者
捕獲方取計ノ專

同 丁第拾八號

同 丁第拾九號

四

同 丁第二拾二號	
同 丁第二拾四號	
同 丁第二拾五號	人民ヨリ郵區戸長ニ對スル詞訟 申渡ヲ爲セテ時通報方ノ事
同 丁第二拾六號	全件ニ付控訴裁判所へ 送ノ事
同 丁第二拾七號	府縣限リ布令スル條則 自今届出ニ及ノ事
同 號 外	被告事件禁錮以上ノ刑ニ該リ 留置ノ節心得テ刑罰ノ事
太政官第二拾二號	十年第拾九号布告控訴上告手 續第三條中改正ノ事
同 第二拾二號	課税ニ關スル處分ニ就キ不服 者出訴手續並期限ノ事
内務省乙第二拾九號	新法實施ニ付九年乙第貳拾六號處 書消滅ノ事
同 乙第三拾壹號	本年乙十九号道監視察旅 券調製方解決ノ事
司法省丙第拾七號	法律上ノ疑義何並請訓 等差出方内訓ノ事
同 丙第拾八號	被告人他之監倉 ニ移入手續ノ事
同 丙第拾九號	内訓條例
同 丙第二拾號	犯罪ニ係ル物件所有主發見 セザル片一年間公告ノ事

同 丁第二拾九號	審理表編抄並勘解表 雜形廢止ノ事
内務省乙第拾三號	監獄刑中覆面巾 罰具調製方ノ事
附 監獄則	

法卿ニ差出シ司法
卿ヨリ死刑執行ス
ベキ命令アリタル
時三日内ニ其執行
ヲ爲スモノナリ
第二條
問 死刑ノ執行ニ
関スル者ハ何
レノ役名ナルハ
第一條ニ掲ケ
テ之レアル則チ檢
察官書記獄司獄
丁等ヲ云フ
○ 死刑ノ執行中ハ
刑場ノ警戒ヲ嚴ニ
シ絞首シタル遺骸
ハ死相ヲ改メ後チ
仍ホ些少時間ヲ過
シザレバ埋葬又ハ
下付スルヲ得ザル
モノトス
始末書ニハ檢察官

可シ
同四百六十二
條
刑ノ執行ハ原
裁所ノ檢察
官又ハ大審院
ヨリ命ヲ受テ
ル裁判所ノ檢
察官ノ指揮ニ
因リ之ヲ爲ス
可シ
○ 治罪法第四百
六十三條
死刑ノ執行ニ
付テハ書記其
始末書ヲ作リ刑
ノ執行規則ニ
從ヒ立會テ爲
シタル官吏ト
共ニ署名捺印
ス可シ

書記其始末書ヲ作リ立會ヲ爲シ
タル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ
裁判所ノ檢察局ニ納ム可シ
第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑
ヲ行フヲ禁ス
元始祭 孝明天皇祭
紀元節 春季皇靈祭
仁孝天皇祭 神武天皇祭
六月大祓 秋季皇靈祭
神宮神嘗祭 天長節
後桃園天皇祭 新嘗祭
光格天皇祭 十二月大祓
第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦
女懷胎ト申スル者ハ醫師及ヒ穩

書記獄司各々捺印
スルモノトス
第四條 死刑ヲ禁ジテ
シタル日ヲ豫カ
シメ知タシ
○ 之レ等ノ日ヲ
一々解スルニ及
バズ例年ノ曆ニ
就テ定マリタル
ト虽モ只春季皇
靈祭秋季皇靈祭
此兩日ハ三月九
月共ニ二三日ノ
差アルノミ
第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケ
タル婦女ハ懷胎ト
申立ルモ醫師穩
テシテ檢査セシメ
ニシテ分明シタル上
ニテ分ラザレバ死刑

(參看)
刑罰令第十四條
大記令節四條
ノ日ハ死刑ヲ
行フテ禁ス
(參看)
刑罰令第十五條
死刑ノ宣告ヲ
受ケタル婦女
懷胎ナル時ハ
其執行ヲ一時
合焼後一百日
ヲ經ルニ非ザ
レバ刑ヲ行ハ
ズ
(參看)
刑罰令第十六條
死刑ノ遺骸故
舊諸フ者アレ
ハ之ヲ下付ス
但式ヲ用ヒテ
葬ムルヲ許テ

婆ヲシテ之ヲ檢査セシメ果シテ
懷胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿
ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後一
百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ
受ケ決行スヘシ
第六條 死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所
ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者アル
時ハ獄司之ヲ許可シ下付スル
ヲ得
第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者
執行ニ至ルマテ何時ニモ獄司
ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ接見
スルヲ得
第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯

第六條 問 死刑ノ遺骸ヲ埋ムニ一定ノ場所トハ何レノ地ヲ云フヤ
 答 死刑ニ處セラレタル者ノ遺骸ハ其地方ニテ定メタル場所ヲ云フ
 ○死刑ニ處セラレタル遺骸ヲ親族故舊ノ請ヒニ依テ下付セラルトモモ通常人ノ如キ式ヲテ葬ムルヲ得
 第七條 問 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマデトハ

刑法第十七條 死刑ハ無期有期ヲ分タル島地ニ發遣シ定役ニ服ス
 第十條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第十一條 死刑ノ婦女ハ島地ニ發遣ス
 第十二條 死刑ノ執行ニ於テ定役

人ノ屬籍氏名年齢職業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公告ス可シ
 刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前
 犯罪ノ地 犯人住居ノ地
 第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ獄司ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送ス可シ
 第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得
 第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者

何時ヨリ何時迄ナルヤ
 答 裁判申渡ヨリ絞首セラレハマデヲ云フナリ
 第八條 問 屬籍ノ區別ハ如何ン
 答 屬ハ華士族平民ヲ云フ籍ハ住所スル本籍ヲ云フナリ
 第九條 問 徒刑又ハ流刑ニ處セラレタル者ハ其裁判ヲ爲シタル地ノ獄司ヨリ内務卿ニ上申シ内務卿ノ命令ヲ得テ後テ島地ニ發遣セシム
 第十條 問 獄外ノ役ニ服

第二條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第三條 有期流刑ハ十五年以下ト爲ス
 第四條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第五條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第六條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第七條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第八條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第九條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第十條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第十一條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第十二條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第十三條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第十四條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第十五條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第十六條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第十七條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第十八條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第十九條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第二十條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第二十一條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第二十二條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第二十三條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第二十四條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第二十五條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第二十六條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第二十七條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第二十八條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第二十九條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第三十條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第三十一條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第三十二條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第三十三條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第三十四條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第三十五條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第三十六條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第三十七條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第三十八條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第三十九條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第四十條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第四十一條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第四十二條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第四十三條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第四十四條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第四十五條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第四十六條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第四十七條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第四十八條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第四十九條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第五十條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第五十一條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第五十二條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第五十三條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第五十四條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第五十五條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第五十六條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第五十七條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第五十八條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第五十九條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第六十條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第六十一條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第六十二條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第六十三條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第六十四條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第六十五條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第六十六條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第六十七條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第六十八條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第六十九條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第七十條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第七十一條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第七十二條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第七十三條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第七十四條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第七十五條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第七十六條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第七十七條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第七十八條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第七十九條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第八十條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第八十一條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第八十二條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第八十三條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第八十四條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第八十五條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第八十六條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第八十七條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第八十八條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第八十九條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第九十條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第九十一條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第九十二條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第九十三條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第九十四條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第九十五條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第九十六條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第九十七條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第九十八條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第九十九條 二年以上十五年以下ト爲ス
 第一百條 二年以上十五年以下ト爲ス

ハ獄司之ヲ許ス可シ
 第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受ク可シ
 第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セテレタル者家屬ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許スヲ得但其路費ハ自ラ之ヲ辨スヘシ
 第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限リ居住セシムル者ハ監獄ノ近傍ノ地ヲ限リ獄司ノ監督ヲ受ケシム若シ已ムトテ得サル事故アル時ハ獄司ニ請フテ限外ニ出

問答詳釋

刑法附則

セシムトハ如何ナル勸キナルヤ
 島地ノ獄ニアル徒刑ハ其地ノ便宜ニ依リ土地開墾等ノ役ヲサシムルヲ謂フ
 第十一條
 流刑ノ囚幽閉中本人自カラ請テ工業ヲ爲ント欲スルハ獄司之ヲ許シ其工錢十分ノ七ヲ本人ニ給與ス
 第十三條
 獄則ヲ遵守シ檢改ノ狀アル無期有期徒刑ノ囚假出獄タル者家屬ヲ招キ同居ヲ請フハ刑罰法第二十一・五十三

獄管理長官ノ誤其餘ノ條ノ獄司ハ與獄監(參看)刑法第九一條無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレバ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限リ居住セシムルヲ得
 第五十三條
 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ遵守シ檢改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後

ル一ヲ得

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ本刑期限内ト雖モ島地ニ於テ直チニ其刑ヲ執行不可シ
 第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得
 第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ
 第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期百日内ハ工錢ヲ給與セス

五十四・五十五・五十六ノ各條則チ參看ノ部ニテ了知スベシ
 第十四條
 流刑ノ囚幽閉中免ゼラレ限内ノ地ニ居住セシムル事モ巴ムヲ得ザル事故アリテ限外ニ出ルヲ請フハ刑罰法第十五條
 第十五條
 幽閉ヲ免セラレタル後又罪ヲ犯シタル片ハ本刑期限ニ再犯ノ刑ヲ執行ス
 第十六條
 懲役重禁錮ノ

行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スルヲ得無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後本流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ例ヲ用ヒズ
 第五十四條
 徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サルハ島地ニ居住セシムル事
 第五十五條
 假出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ
 第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ之ヲ徵收セス附加ノ罰金ニ於ル亦同シ
 第二章 監視
 第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス
 第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終

四ハ便宜ニ從ヒ
獄外ノ役ニ服セ
シムルヲ得ト
アリ然ルニ刑法
第二十二條及ビ
第二十四條ニ依
リテ解シガタシ
テ本條ヲ設ケラ
レタル所以ハ只
其便宜ニ從ヒ獄
外ニ勞役セシム
ルノモ亦アル
第廿七條
○禁獄輕禁獄ハ俱
ニ定役ニ服セシム
ザルモノトス參看
ノ部ニテ了知スヘ
第廿八條
○刑法第廿五條ニ
但現役百日内ハ
給與ノ限ニ在ラズ

テ治産ノ金ノ
幾分ヲ免ズル
了テ得
但本刑期限内
特別ニ定メタ
ル監視ニ付ス
第五十六條
假出獄中更ニ
重罪輕罪ヲ犯
シタル者ハ直
チニ出獄ヲ停
止シ出獄中ノ
日數ハ刑期ニ
算入スルヲ得
得ズ
參看
第二十三條ノ
一項
禁獄ハ内地ノ
獄ニ入レ定役
ニ服セズ
第二十四條ノ

リタル時獄司ヨリ犯人ヲ其住居
ノ地ノ警察所ニ護送シ監視ヲ執
行セシム至刑ノ期滿免除ヲ得タ
ル者又ハ主刑ヲ免シ止夕監視ニ
付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨ
リ警察官ニ護送ス可シ
第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送
スル時ハ其監視ノ起算滿期ヲ記
載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ
謄本ヲ附ス可シ
第二十四條 犯人ノ住居遠地ニ在
テ一日程ヲ過クル者ハ獄司若ク
ハ檢察官ヨリ先ツ最近ノ警察所
ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地

トアリ本條モ亦其
再犯ノ刑期百日以
内ナル片ハ工錢ノ
幾分ヲ給與セズ何
トナレバ囚人ノ作
業ヲ爲シタル日數
百日内ナル片ハ
其工錢ノ内ヨリ官
ノ費用ヲ引去リテ
囚人ニ與フベキ餘
分ナキ故ナリ
第十九條
○囚人ノ工業ニ勉
勵シテ其得ル金
工錢ヲ請フ片一日
金三錢ニ過ザル食
用費ヲ給與スベシ
第二十條
罰金科料ノ宣
告ヲ受ケ未タ納
完セザル前ニ犯
人死スル片ハ微

一項
輕禁獄ハ定役
ニ服セズ
參看
第二十五條
囚人ノ工錢ハ
監獄ノ規則ニ
從ヒ其幾分ヲ
獄舎ノ費用ニ
供シ其幾分ヲ
囚人ニ給與ス
但現役百日内
内ハ給與ノ限
ニアラス
○監獄則ハ明
治十四年九月
十九日附ヲ以
テ太政官ヨリ
達シラレタリ
參看
刑法第三十四

ノ警察所ニ送致ス可シ
第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住
居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ
其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅
券ヲ付與シ犯人到着ノ日直チニ
之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム
但途中事故アリテ淹滞シタル時
ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ
犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條
ニ記載シタル書類ヲ其地ノ警察
所ニ送送ス可シ
第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察
所ニ於テハ監視ノ期間間遵守ス
可キ條件ヲ讀聞カセ監視ノ票ヲ

問答注釋

刑法附則

問答註釋

刑法附則

能ハザル片ハ最モ
近キ警察所ニ送
シテ夫ヨリ犯人住
ル警察所ニ送致ス
ルナリ

第二十五條

○本條前項ハ前條
ノ場合ニ於テノ手
續キナリ

第二十八條

○本條其家宅ト
ハ犯人ノ家宅テ
云フカ

然リ

第二十九條

○本條ハ第二十七
條ノ三項ノ手續キ
テ云フ

第三十條

○本條ハ第二十七
條ノ四項ノ場合テ
云フナリ

若シ主刑ヲ免
シテ止メ監視
ヲ付シタル時
ハ其裁判確定
ノ日ヨリ起算
ス

（本意）

同第四十一條
監視ニ付セラ
レタル者其情
狀ニ因リ行政
ノ處分ヲ以テ
假ニ監視ヲ免
スルコトヲ得

ヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ
先方ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ
往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與
ス可シ

犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警
察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認
印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ
直チニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シ

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病
等ニ因リ臨時淹滞シタル時ハ事
由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏
ノ證書ヲ受ケ歸着ノ日旅券ニ添
へ警察所ニ差出ス可シ

第三十二條 監視ニ付スル者住居

第三十三條

○本條及第三十
三條ニ掲ゲタル
懲治場トハ如何
ナル場所ヲ云フ
ヤ

問

○本條及第三十
三條ニ掲ゲタル
懲治場トハ如何
ナル場所ヲ云フ
ヤ

答

○監獄中ノ別房
ニ留置スノ誤リ
ニテ既二十四年
十二月太政官第
八十一号ヲ以テ
正誤セラレタリ
未着ノ欄ニ出ツ
ベシ

第三十四條

○本條及第三十
三條ニ掲ゲタル
懲治場トハ如何
ナル場所ヲ云フ
ヤ

刑法第二十七條
明治十四年十
二月廿八日付
ヲ以テ太政官
ノ正誤
刑法附則中第
三十二條第三
十三條及第三
十七條ノ懲
治場ニ留置ハ
監獄中ノ別房
ニ留置ノ誤

問答註釋

刑法附則

ナク及ヒ引取人ナク時ハ其期限
間懲治場ニ留置シ工業ヲ爲サシ
メ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在
テ歸着スル資力ナキ者亦同シ

第三十三條 懲治場ニ留置シタル
者限内引取人ヲ得又ハ住居ノ地
ニ歸着スル資力ヲ得タル時ハ其
地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行
セシム可シ

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯
シ初犯再犯共ニ監視ニ付ス可キ
時又ハ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯
シ更ニ監視ニ付ス可キ時ハ並ニ
主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算

○通算トハ前ノ監視期限ト後ノ監視期限トヲ合セテ其期限間監視スルヲ云フ

第三十五條 ○本條ハ刑法第二十七條及看ノ欄ト比スベシ

第三十六條 ○本條ハ刑法第四十一條參照スルヲ見ルベシ

第三十七條 ○本條ハ第二十七條ノ三項及第二十九條ノ例ニ從テ

罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セザル者ハ一日ヲ一日ニ計算ス

罰金ヲ禁錮ニ換テ者ハ更ニ換テ用ヒズ

檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但し期限ヲ命ス

シテ監視ヲ執行ス可シ

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス可シ

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ遵守シ悔改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルヲ得

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル時ハ第二十七條第三及第二十九條ノ例ニ從フ可シ

第三章 假出獄及特別監視

第三十九條 ○本條ハ第四十條ト比照スベシ

第四十條 二項ノ殘期トハ如何

答 譬へハ輕懲役八年ノ刑ニ處セラレタル者六年間服役シタル片ハ二年ハ即チ殘期ナリ

銅ノ期限ハ二年ニ過ルヲ得ス

若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シ

刑法第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルヲ得

(參看)

第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレントテ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ク可シ

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ獄司ヨリ其證票ヲ犯人ニ下付ス可シ

第四十條 假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日

二 殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事

問 三項特別監視トハ如何

答 第四十一條ヨリ第四十五條迄ヲ見ルベシ

問 四項出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セラルトハ如何

答 假出獄中ノ自數ハ刑ノ期限ニ拘ハラザルヲ以テナリ

問 第四十一條

答 本條ハ刑法第五十五條參看ノ欄ヲ見ルベシ

問 第四十二條

答 如何ノ證票ノ謄本ト

問 第四十條ノ證票ノ謄本ト

刑法第五十三條

重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ遵守シ候改メテアル時ハ其刑期四分ノ三ヲ経過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スルヲ得

參看 刑法第五十五條

假出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ得

參看 刑法第五十五條

假出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ得

參看 刑法第五十五條

假出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ得

參看 刑法第五十五條

三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事

四 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ

出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セザル事

第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財産ヲ治メ

若クハ職業ヲ營マントスル時ハ

警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

第四十二條 假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ

日獄司ヨリ其證票ノ謄本ヲ添ヘ

犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護

送ニ特別監視ヲ執行セシム可シ

第四十三條 特別監視ニ付スル者

ハ第二十三條第二十四條第二十

五條第二十六條第二十九條第三

十一條ノ例ヲ適用ス

第四十四條 特別監視ニ付セラレ

タル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵

守ス可シ

一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視

ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク

可シ但疾病又ハ已ムヲ得サ

ル事故アリテ警察所ニ到ル

能ハサル時ハ其事由ヲ出ツ可シ

第四十三條
○本條ハ刑法第五十六條參看ノ欄ヲ見ルベシ

テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得但本刑期限内特別ニ定メタル監視ニ付ス
參看 刑法第五十六條
假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルヲ得

第四十六條
本條ニ記載アル警察所トハ其人居住スルノ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス

三 事故アリテ住居ヲ轉移セシトスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ但他ノ府縣ニ轉移スルヲ許サス

四 往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルヲ許サス

第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルヲアル可シ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レバ假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨ

警察所ヲ云フカ
然リ

第四十八條
本條ハ參看ノ欄ニテ明カナリ

參看
刑法第四十五條
刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人

リ證票ヲ出シタル獄司ニ送送ス可シ

主刑滿限ノ後監視ニ付不可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ懲治場ニ留置ス可シ

第四章 刑事裁判費用

第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人通辨人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ヒ第五十一條第五十二條ニ

第五十條
○參看ノ欄ヲ見ル

二科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム
同第四十七條
數人共犯ニ係ル裁判費用賠償ノ還給損害物ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシム
同四十八條
裁判費用賠償ノ還給損害物ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルヲ得
若シ贓物犯人ハ請求ナシト

記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲ス

第四十九條 日當旅費及ヒ止宿料ノ金額左ノ如シ

日當五拾錢

旅費一里拾錢

止宿料一宿貳拾五錢

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ呼出ノ地ニ滞在

在中ハ日當並ニ止宿料ヲ給ス其

三里未滿ノ地ニ在ル者ハ旅費止

宿料ヲ給セス

第五十條 證人ノ日當旅費及ヒ止

宿料ハ本人ノ請求アルニ非サレ

ハ之ヲ給與セス

第五十一條 證人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第九十條ニ從

ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當

ノ外若干ノ償金ヲ給スルヲアル

可シ

第五十二條 解剖舎密等ノ費用及

ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻譯料ノ

類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス可シ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受

ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯

人身死スル時ハ其相續人ヨリ之

ヲ徵收ス

第五章 賠償處分

虽モ直ニ之ヲ被害者ニ還付ス
治罪法第二百
條
鑑定人及ヒ通事ニハ旅費給料其他相當ノ費用ヲ給與ス可シ
同四百六十二條ノ二項
罰金科料裁判費用及ヒ沒收物品ハ檢察官ノ命令書ニ依リ之ヲ徵收ス可シ
（參看）
治罪法第九十條
證人ハ即時ニ

第五十四條
○本條モ亦參看ノ
欄ニテ了知セヨ

第五十五條
問 公商トハ如何
ナル商人ナルヤ
答 公商ハ何クノ
物品ヲ以テ商
商人ニ限ラズ一
般ノ商人ヲシテ
公ノ賣人ヲ云フ

出廷ニ付テノ
旅費日當ヲ要
ムルヲ得
若シ日稼ヲ以
テ生業トスル
者ナル時ハ旅
費日當ノ外日
稼高ニ等シキ
賃金ヲ要ムル
ヲ得
○(參看)
刑法四十六條
犯人刑ニ處セ
ラレ又ハ放免
セラルトモ
モ被害者ノ請
求ニ應ジ贓物
ノ還給損害ノ
賠償ヲ免カス
ハ得
同四十七條
八條ハ前ニ掲

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル
時ハ直チニ被害者ニ還付スト雖
モ若シ輾轉シテ他人ノ手ニ在ル
時ハ被害者ノ請求ニ因リ還給セ
シムル者トス
第五十五條 贓物輾轉シテ他人ノ
手ニ在ル時公商ニ由リ買取シタ
ル物品ハ其公商若クハ被害者ヨ
リ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直
チニ還給セシムルヲ得ス
若公商ニ由ラスシテ買取シタル
物品ハ其還給ヲ拒ムルヲ得ス但
其買取者ハ賣者ニ對シ轉價ヲ求
ムルヲ得

第五十七條
○贓物ヲ他ノ物品
ト交易シテ其贓物
現ニ在ル片ハ第五
十五條ニ從ヒ處分
スルヲ云フ

第五十九條
○失火ノ難ニ罹リ
タルノ他カ本條ニ
掲ゲタル賠償ハ刑
法第四十六、四十七
四十八條及治罪法
第二條及七第八條
ニ從テ參看ノ欄ヲ
見ルベシ

○(參看)
刑法四十六、四
十七、四十八條
ニ參看ノ欄ニ
出タリ
治罪法第二條
私訴ハ犯罪ニ
因リ生シタル
損害ノ賠償贓
物ノ返還ヲ目

第五十七條 贓物交換シテ現在不
ル時ハ公商ニ由ルト否トテ區別
シ第五十五條ノ例ニ從テ處分ス
可シ
第五十八條 贓物已ニ費用シタル
時又ハ識別ス可カラサル時又ハ
其所在ノ知レサル時ハ損害ノ賠
償ヲ請求スルヲ得
第五十九條 人ノ名與若クハ殺傷
ニ關シタル損害其他犯罪ノ爲メ
現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請
求スルヲ得但失火ハ此限ニ在
ラス
第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償

第六十條
 ○參看ノ欄ニテ了知スベシ
 第六十條
 民事訴訟ノ程
 式ニ從フトアル
 ハ其訴訟スルニ
 訴訟用異紙ニ認
 メテ正副ニ通出
 スヲ云フカ
 刑事裁判所ニ
 駐物還給損害賠
 償ヲ請求スル片
 ハ通常ノ文書ニ
 テ爲ストテ得ル
 ト虽モ民事訴訟
 訟ハ問ノ通りタ
 ルベシ
 第六十二條
 ○駐物還給損害賠
 償ハ其犯人死シタ
 ル後ト虽モ相續人

的トスル者ニ
 シテ民法ニ從
 ヒ被害者ニ屬
 ス
 同第八條
 被告人免訴又
 ハ無罪ノ言渡
 ヲ受ケタリト
 虽モ民法ニ從
 ヒ被害者ヨリ
 賠償返還テ要
 スルノ妨礙ト
 爲ルヲナカル
 可シ
 治罪法第四條
 私訴ハ其金額
 ノ多寡ニ拘ハ
 ラズ公訴ニ付
 帶シテ刑事裁
 判所ニ之レヲ
 爲ストテ得但

ハ其犯罪ヲ審判スル刑事裁判所
 ニ請求スルヲ得若シ其審判已
 ニ終リタル後ハ民事裁判所ニ非
 サレハ之ヲ請求スルヲ得ス
 第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓
 物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル
 者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ
 之ヲ爲ストテ得其民事裁判所ニ
 請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ
 從テ可シ
 第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠
 償ハ本犯死スル時ハ其相續人ニ
 對シ之ヲ要求スルヲ得
 第六十三條 贓物ノ還給損害ノ

ニ對シ請求スルヲ
 得セシム

法律ニ於テ其
 裁判所ニ私訴
 ヲ爲ストテ許
 サル場合ハ
 此限ニアラズ
 又私訴ハ別ニ
 民事裁判所ニ
 之ヲ爲ストテ
 所ニ於テ現ニ
 之ヲ爲ス可シ
 時ハ檢察官ノ
 裁判所ニ其訴
 シタル時ハ被
 判所ニ其訴ヲ
 左ノ場合ニ於
 タル時ハ故意
 ラサル時○二
 免除ト爲リタ
 リタル時○六
 ニ於テ被害者
 丁テ得ス

賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠
 償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民
 事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求
 スルヲ得

同第五條公訴私訴ノ裁判ハ管轄裁判
 所ニ於テ現ニ施行スル法律ニ定メタル訴訟手續ニ從ヒ
 時ハ第七條民事裁判所ニ私訴ヲ爲シタル
 時ハ檢察官ノ起訴アルニ非サレバ願下ヲ爲シ更ニ刑事
 裁判所ニ其訴ヲ爲ストテ得ス 刑事裁判所ニ私訴ヲ爲
 シタル時ハ被告人ノ承諾ヲ得テ願下ヲ爲シ更ニ民事裁
 判所ニ其訴ヲ爲ストテ得 同二百二十四條豫審判事ハ
 左ノ場合ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲シ且被告人勾留ヲ受ケ
 タル時ハ故意ノ言渡ヲ爲スベシ○一犯罪ノ證據充分ナ
 ラサル時○二被告事件罪ト爲ラサル時○三公訴ノ期滿
 免除ト爲リタル時○四確定裁判ヲ經タル時○五大赦了
 リタル時○六法律ニ於テ其罪ヲ全免スル時本條ノ場合
 ニ於テ被害者ハ民事裁判所ニ非サレバ要償ノ訴ヲ爲ス
 丁テ得ス

○太政官第六十二号 布告

明治十年一月第十号布告府縣廳ノ條規ニ違犯スル者處分規則ノ儀ハ明治十五年一月一日ヨリ廢止ス

○爾第六十四号

密賣淫ノ儀ハ刑法第四百二十五條十項ニ明文有之候ヘトモ當分ノ内其取締懲罰ハ従前ノ通東京ハ警視廳其他ハ地方官ニ委任ス

○同第七十二号

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行ニ付法律規則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ處断ス

第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

(参考) 刑法第四百二十五條ノ十項 密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者 明治九年一月十二日付ヲ以テ改定律例第二百六十七條 私娼街賣條例ヲ廢シ賣淫取締懲罰ノ義ハ警視廳并ニ地方官ニ任セラル

第二條 凡禁獄及七禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第三條 凡罰金及ヒ科料ハ二圓以上ヲ罰金ニ處シ二圓未満ヲ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處断ストアリ答申付トアルハ總テ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第六條 法律規則中罰例アリト虽モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處断ス

第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スル者ト虽モ輕罪裁判ニ於テ之ヲ裁判ス

(参考)
 刑法第三條
 第二項
 若シ處犯領布以刑
 ニ在テ未タ判決ヲ
 經ナル者ハ新舊ノ
 法ヲ比照シ輕キニ
 從テ處断ス
 ○太政官十五年一
 月十四日
 第八十一号正親
 初項宛照スルニハ
 左ノ下ノ例ニ字脱
 ス
 第一條(比照ノ下)ス
 ルニ(△)四字ハ行

但始審裁判所々在ノ地ヲ除クノ外ハ治安
 裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得
 ○同第八十一号
 刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニ
 ハ左ニ從フベシ
 第一條 新舊法比照スルニハ左ノ如シ
 新法 舊法
 一 死刑 斬絞
 二 無期徒刑 懲役終身
 三 有期徒刑
 四 無期流刑 禁獄終身
 五 有期流刑
 六 重懲役 懲役十年
 七 輕懲役 懲役七年

八 重禁獄 禁獄十年
 九 輕禁獄 禁獄七年
 十 重禁錮 懲役十一日以上五年以下
 十一 輕禁錮 禁獄鎖錮十一日以上五年
 以下
 十二 罰金 贖罪收贖罰金科料二圓以上
 十三 拘留 懲役禁獄鎖錮拘留十日以下
 十四 科料 贖罪收贖罰金科料二圓未滿
 第二條 舊法刑期新法主刑ノ刑期內ニ在ル時
 ハ新法ニ從フ但舊法ノ刑期ニ過クルトテ得
 ス(舊法ニ於テ懲役百日ニ該ル者新法ニ照
 シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新
 法ニ從ヒ二月以上百日以下ノ重禁錮ニ處ス
 ノ類

若シ舊法刑期新法主刑ノ短期ニ等シクシテ
 舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ
 從フ (舊法ニ於テ禁獄三十日ニ該ル者新法
 ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ該ル時
 ハ舊法ニ從ヒ禁獄三十日ニ處スルノ類)

第三條 舊法新法ノ刑共ニ短期長期アル者ハ
 其短短期ノ列ノ短キ者ニ從フ但其長期ノ短
 キ者ニ過ルヲ得ス (舊法ニ於テ一年以上
 三年以下ノ懲役ニ該ル者新法ニ照シ三月以
 上四年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ三
 月以上三年以下ノ重禁錮ニ處スルノ類)

若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ
 定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ
 舊法ニ於テ二月以上三年以下ノ禁獄ニ該ル

者新法ニ照シ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ
 該ル時ハ舊法ニ從ヒ二月以上二年以下ノ禁
 獄ニ處スルノ類

第四條 舊法ノ贖罪收贖若クハ罰金科料ノ金
 額新法主刑ノ金額ニ在ル時ハ新法ニ從フ但
 舊法ノ金額ニ過クルヲ得ス

第五條 舊法新法ノ罰金科料共ニ多數寡數ア
 ル者ハ其寡數ノ寡キ者ニ從フ但其多數ノ寡
 キ者ニ過クルヲ得ス

第六條 舊法ニ於テ單ニ體ニ刑該ル者新法ニ
 於テ罰金附加スベキ時ハ其罰金ヲ附加セス

第七條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者ハ新法ニ於
 テ罰金科料ニ該ル時ハ新法ニ從フ
 舊法ニ於テ贖罪收贖若シハ罰金科料ニ該ル

者新法ニ照シ體刑ニ該ル時ハ舊法ニ從フ
 第八條 舊法ニ從ヒ贖罪收贖ニ處シタル者其金額ヲ延期限内ニ納完スル能ハサル時ハ一圓ヲ一日ニ折算シ輕禁錮又ハ拘留ニ換フ但一圓未滿ト虽モ仍ホ一日ニ計算ス
 第九條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スル時ハ新法ノ附加刑ヲ適用セス但除族追奪位記沒收ノ類ハ舊法ニ從フ
 第十條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監視ヲ附加セス
 第十一條 華士族ノ犯罪新法ニ於テ輕罪ニ該ル者舊法ニ從ヒ處断スル時ハ其族ヲ除セス
 第十二條 新法ト舊法トヲ比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

治罪法ノ部
 問答註釋
 違警罪裁判所ハ治罪法第四十九條ヨリ五十三條ノ手續ニ從ヒ治安裁判所ノ判事ヲシテ裁判セシムルノ原則ナレド該罪タルヤ至輕至微ニシテ元來惡意ヲ探ムニ非ラズ只規則ヲ知ラザルヨリ違フ者多ク然リ而テ其審判ニ関スル手續モ亦至テ簡易ナリ
 ○太政官第十九號ヲ以テ十四年第十四號布告ヲ廢

第十三條 鎖ニ處ス

治罪法第四十九條
 治安裁判所ハ違警罪裁判所トシテ其管轄地内ニ於テ犯シタル違警罪ヲ裁判ス
 同五十一條
 違警罪裁判所判事ノ職務ハ治安裁判所判事ノ行フ判事差支アル時ハ判事補其職務ヲ行フ
 同五十一條
 違警罪裁判所

治罪法ノ部

○太政官第四十四號
 違警罪ノ審判ニ關スル一切ノ手續ハ治罪法ニ從フベシト虽モ實際已ムヲ得サル場合於テハ當分ノ内便宜取計ラヒ其裁判言渡ニ付テハ總テ上訴ヲ許サス
 ○同第四十五號
 公訴私訴ニ係ル控訴上告及ヒ證人呼出費用等ノ儀當分左ノ通相定候條此旨布告候事
 刑事裁判所ノ裁判言渡ニ對シ訴訟

止ス

第四十六号
○書類送達ハ治罪
法第二十四條ニ從
テトモ當分ノ内
休暇ノ日及ヒ夜間
モ亦送達ノ效アリトス

之ヲ行フ
同五十二條
違警罪裁判所
檢察官ハ毎月
未決既決ノ事
件表ヲ作リ
罪裁判所檢事
ニ送ルベシ
事件表ハ違警
罪裁判所判事
認印シ且意見
アル時ハ之ヲ
付記ス可シ
同五十三條
違警罪裁判所
書記ノ職務ハ
治罪法第二十
四條
休暇ノ日及ヒ

關係人ヨリ控訴又ハ上告ヲ爲スヲ
許サス
豫審又ハ公判ニ付證人ヲ呼出サン
ト請フ者アル時ハ裁判所ト於テ其
旅費日當等ノ金額ヲ算定シテ之ヲ
豫納セシムベシ
若シ被告人旅費日當ヲ豫納スルノ
資力ナキ時ハ治罪法第七十條ノ
制限ニ從ヒ裁判所ニ於テ其費用ヲ
立替置シベシ
○同第四十六條
書類送達ニ付治罪法第二十四條ノ
制限有之候ヘドモ當分ノ内ハ不及
其儀候事

日出前日没後
ハ書類ノ送達
ヲ爲スベカラ
又此規則ニ背
キタル時ハ其
送達ノ效ナカ
ル可シ
但本人承諾シ
テ其送達ヲ受
ケタル時ハ此
限ニ在ラス
同第四十條
同等ノ裁判所
ニ於テハ犯罪
ノ地ノ裁判所
ヲ以テ豫審及
ヒ公判ノ管轄
ナリトス
犯罪ノ地分明
ナラサル時ハ
被告人逮捕ノ
地ノ裁判所ヲ

治罪法第四十條ニ犯罪ノ地ヲ以テ
裁判管轄ト規定有之候處當分ノ内
犯罪ノ地分明ナル被告人ト最モ管
轄裁判所ヨリ囑託アリタル時ハ其
被告人逮捕ノ地ノ裁判所之ヲ管轄
スベシ
治罪法第七十三條第二項ニ陪席判
事四名ト有之候ヘトモ當分ノ内ニ
名ト相定候事
治罪法第一百一條ニ准シ現行犯ノ場
合列記有之候處其舉動犯人ト思料
スヘキ者アル時ハ當分ノ内現行犯
ニ准シ處分スルヲ得
治罪法第一百三十三條三項ニ家宅搜

以テ其管轄ナ
リトス
同七十三條第
二項
陪席判事四名
但控訴裁判所
ニ於テ開ク時
ハ裁判所長ヨ
リ其裁判所判
事ニ之ヲ命
シ始審裁判所
ニ於テ開ク時
ハ其裁判所長
及ヒ先任ノ判
事ヲ以テ之ニ
充ツ
同第百一條
重罪輕罪ニ付
キ左ノ場合ニ
現行犯人トシ
テ一人又ハ數

索ノ制限有之候ヘトモ芝居人寄席
飲食店湯屋遊船宿待合茶屋ノ類ハ
日出前日没後ト虽モ其營業ヲ爲ス
時間又旅館屋貸座敷ハ日出前日没
ニ拘ハラズ搜索致シ苦シカラズ
治罪法第六十八條第七十三條
ニ於テ治安判事ニ囑託スルヲ許
シタル處分ハ當分ノ内其地ノ司法
警察官ニモ囑託スルヲ得
治罪法第二百五條一項但書ニ司法
警察官ハ令狀ヲ発スルヲ得サル
旨記載有之候ヘトモ當分ノ内現行
犯ノ場合ニ限り令狀ヲ發シ苦シカ
ラス

人ニ追呼セテ
ル、時
二 兇器贓物
其他犯人ト思
料ス可キ物件
ヲ携帶シタル
時
三 家宅内ニ
於テ犯シタル
罪ヲ檢證スル
爲メ又ハ其犯
人ト思科ス可
キ者ヲ逮捕ス
ル爲メ戶主ヨ
リ官吏ニ其處
分ヲ求メタル
時
同第百三十三
條第三項
家宅搜索ハ日
出前日没後之
ヲ爲スルヲ得

○同第四十七條
刑事裁判所ニ於テ被告人ヲ責付ス
ルハ左ノ手續ニ從フベシ此旨布告
候事
第一條 被告人ヲ責付スルニハ親
屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ
應シ出廷セシムヘキノ證書ヲ其裁
判所書記局ニ差出サシムヘシ
第二條 責付中被告人ヲ呼出スト
キハ出廷ヨリ二十四時前ニ其通知
ヲ爲スヘシ
第三條 被告人呼出ヲ受ケ正當ノ
事由ナクシテ出廷セサル時ハ檢事
ノ意見ヲ聽キ責付ヲ取消スヘシ

○八十号
 明治十四年七月八日
 付テ以テ明治十五年一月一日ヨリ
 刑法治罪法施行ノ
 公布セラレタリ

同第六十八條
 豫審判事ハ其管轄地内トモモ時宜ニ因リ臨檢家宅搜索ノ事ヲ其地ノ治安判事ニ囑託スルヲ得
 同第七十三條
 呼出狀ニハ證人ノ氏名住所及ヒ職業ヲ記ス可シ
 又出頭ノ日時及ヒ場所ヲ呼出ニ應ゼザル時ハ罰金ヲ言渡且勾引スルヲアル可キ旨ヲ

○同第四十八号
 刑法治罪法中違警罪裁判所ノ儀ハ當分三府五港ノ市區ヲ除クノ外府縣警察署又ハ警察分署ニテ裁判可致候條此旨布告候事
 ○同第四十八号改正
 ○同十二月第八十号
 違警罪ノ儀ハ本年三十六号布告ニ據リ明治十五年一月一日ヨリ治安裁判所ニ於テ裁判スベキ處當分ノ内府縣警察署及ヒ其分署ニ於テ裁判セシムベシ
 ○同第五十三号
 各裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區畫別

裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區別

記載ス可シ
 呼出狀ノ送達ト出廷ノ間少クモ二十四時ノ猶豫アル可シ

表ノ通改正シ明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

本年十月第五十三号布告ヲ以テ各裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區畫改正候ニ付テハ從前布告布達中上等裁判所トアルハ小控訴裁判所トアルハ始審裁判所トアルハ改テハ治安裁判所ト改	大	控訴治審治安府縣區名	區郡名
東京府	日本橋區	日本橋區	日本橋區 京橋區ノ内
東京府	京橋區	京橋區	京橋區ノ内
東京府	下谷區	下谷區	下谷區 神田區ノ内 北豊島ノ内
東京府	淺草區	淺草區	淺草區 本所區ノ内 南足立區 南葛飾ノ内 北豊島ノ内
東京府	麹町區	麹町區	麹町區 神田區ノ内 牛込區 南豊島ノ内 原ノ内
東京府	四谷區	四谷區	四谷區 赤坂區 東多摩 南豊島ノ内 荏原ノ内
東京府	芝區	芝區	芝區ノ内 麻布區 荏原ノ内 南豊島ノ内
東京府	本郷區	本郷區	本郷區 小石川區 神田區ノ内 北豊島ノ内
東京府	本所區	本所區	本所區ノ内 深川區 南葛飾ノ内
東京府	品川	品川	芝區ノ内 荏原ノ内

飯田治安
裁判所
行中
(田筑摩内)
五字八術

判所													
相川	高田	長岡		新瀨	新潟	上田	長野	飯山	長野	福島			
相川	糸魚川	高田	六日町	柏崎	長岡	村上	新瀨	新潟	岩村田	上田	飯山		
	新潟縣			新潟縣			新潟縣		長野縣		長野縣		
	越後			越後			越後		信濃		信濃		
全國三郡	西頸城	東頸城	南魚沼	刈羽内	古志	北魚沼	岩船	北蒲原	新潟區	西蒲原	中蒲原	南蒲原	
									北佐久	小縣	植科内	更級内	
										下高井	上水内	下水内	
											西筑摩内	上高井	更級内

大											
京都			大坂			園部			宮津		
上京	下京	伏見	本田	中島	天王寺	園部	福知山	宮津	神戶		
京都府			大坂府			京都府			京都府		
山城			攝津	攝津	河内	攝津	河内	丹波	丹波	攝津	攝津
上京區	愛宕内	葛野内	下京區	愛宕内	葛野内	乙訓	紀伊	久世	相樂	綴喜	宇治
西區			北區	西成	東區	南區	島上	島下	能勢	豐島	讚良
南區			西成	東成	河内	交野	河内	若江	涼川	高安	志紀
船井			南桑田	天田	何鹿	全國五郡	神戶區	八部	菟原	武庫	川邊
											有馬

判所管內

鹿兒島始審 裁判所管内 鹿兒島治 安裁判所 行中 田水内 四											
所 判 裁 訴											
鹿兒島		天草		熊本		大分		大分		大分	
大島	水引	鹿島	天草	人吉	八代	山鹿	熊本	豆田	中津	杵築	竹田
鹿島		熊本縣		熊本縣		熊本縣		大分縣		大分縣	
大隅	大隅	薩摩	大隅	薩摩	肥後	肥後	肥後	豐後	豐前	豐後	豐後
大島	菱刈	出水内	薩摩 高城 伊佐 薩島 日置 内	始羅 增呷 肝屬 熊毛 大隅 桑原 取謀	鹿兒島 日置 内 額姓 出水 内	天草	求麻	八代 蘆北	山鹿 山本 菊池 玉名	熊本 熊本 飽田 託摩 宇土 合志 辻益 藤	玖珠 日田
直入 大野 内		西國 東 速見 内		下毛 宇佐		大野 内		大野 内		大野 内	

字八街 出水ノ下ノ 内ノ二字ハ 街 仙臺始審裁 判所管内 古川治安 裁判所ノ 行中 (連田)ノ二字 ヲ脱ス 石巻治安 裁判所ノ 行中 (連田)ノ二字 ハ街 大河原治 安裁判所 ノ行中 岩代伊達ノ 内ノ六字ハ											
宮 城 控 訴											
宮崎		福島		仙臺		白川		平		若松	
宮崎	都城	延岡	仙臺	古川	石巻	大河原	福島	中村	福島	白川	平
日向		宮崎縣		宮崎縣		宮崎縣		宮崎縣		宮崎縣	
宮崎	那珂内	諸縣内	白芥	仙臺區 宮城 名取 黒川	志田 加美 玉造 栗原 口	桃生 杜鹿 登米 本吉 遠出	柴田 伊田 伊具 亘理	伊達 伊達 伊達 内	信夫 安達 伊達 内	宇多 行方	東白川 石川
宮崎 兒湯 諸縣内 那珂内		那珂内 諸縣内		仙臺區 宮城 名取 黒川		志田 加美 玉造 栗原 口		桃生 杜鹿 登米 本吉 遠出		柴田 伊田 伊具 亘理	
伊達 伊達 伊達 内		信夫 安達 伊達 内		宇多 行方		東白川 石川		岩瀬 安積 内		磐前 磐城 猶葉 菊田 標葉 田村 内	
北會津 耶麻 河沼 大沼 安積 内		南會津 耶麻 河沼 大沼 安積 内		北會津 耶麻 河沼 大沼 安積 内		南會津 耶麻 河沼 大沼 安積 内		北會津 耶麻 河沼 大沼 安積 内		南會津 耶麻 河沼 大沼 安積 内	

第五十四
刑法治罪法實施ノ
創ニ付テハ百事
繁忙ニシテ裁判所
ノ設置未タ充分ナ
ラサルニ據リ悉ク
正則ニ從フ不能ハ
ハ故ニ當分ノ内檢
察官ハ犯罪事件輕
罪ニシテ豫審ヲ要
スバト見込ム片ハ
始審裁判所々在ノ
地ヲ除クノ外其所
在ノ地ノ違警罪裁
判所ニ於テ輕罪裁
判所ヲ開キ其裁判
ヲ爲ス丁ヲ得ベシ
ト然ラバ其判事ハ
輕罪判事ニテラス
シテ治安判事之ニ

參看
治罪法第七
條第二
輕罪ト思科シ
タル事件ニ付
ハ其輕重難易
ニ從ヒ豫審ヲ
求メ又ハ直チ
ニ輕罪裁判所
ニ其訴ヲ爲ス
可シ
第五十五号
治罪法第七十
三條末文

○同第五十四号 同十月六日
刑法治罪法實施ノ儀布告候ニ付テ
ハ當分ノ内輕罪ニシテ檢察官ニ於
テ豫審ヲ要セスト見込ムモノニ限
リ始審裁判所々在ノ地ヲ除クノ外
治安裁判所ニ於テ輕罪裁判ヲ開キ
其裁判ヲ爲ス丁ヲ得ヘシ此旨布告
候事
但本文ノ場合ニ於テ訟廷内治罪
ノ手續ハ便宜可取計且其手續上
ニ付テハ上訴ヲ許サス
○同第五十五号 同十月六日
治罪法第七十三條末文陪席判事第
七十九條第二項補充判事ノ儀當分

代ルモノナリ此場
合ニ於テハ其訟廷
内治罪ノ手續等便
宜取計フベクニ付
悉ク治罪ノ正則ニ
從フ丁能ハサルモ
ノナリ依テ其手續
上ニ付テハ上訴ヲ
許サバルモノトス

陪席判事四名
但訟廷裁判所
ニ於テ開ク時
ハ裁判所長ヨ
リ其裁判所判
事ニ於テ之ヲ
命シ始審裁判
所ニ於テ開ク
時ハ其裁判所
及ヒ先任ノ判
事ヲ以テ之ニ
充ツ
同第七十九條
第二項
判事差支アル
時ハ民事局判
事教授ノ順序
ニ從ヒ其職務
ヲ行フ
參看
治罪法第二百
十二條第二項
勾引狀ヲ以テ

其裁判所又ハ院長ノ臨時指定スル
所ニ任シ候條此旨布告候事
○同第五十六号 同十月七日
小笠原島裁判事務當分東京府出張
所ニテ治安裁判所(即チ違警罪裁判
所ノ權限ヲ以テ裁判セシメ民事事
控訴及重罪裁判ハ東京控訴裁判所
ノ管轄ト相定明治十五年一月一日
ヨリ施行候條此旨布告候事
但該島ニ於テ治罪ノ手續ハ
適宜取扱フベシ
○同第五十七号 同十月七日
伊豆七島裁判事務當分該島吏へ民
事八百圓以下及勸解并ニ刑事ハ東

第五十九号
 引致シタル被
 告人ハ四十八
 時内ニ之ヲ訊
 問ス可シ若シ
 其時間ヲ超過
 スル時ハ勾留
 状ヲ差スルニ
 非サレハ當然
 之ヲ釋放ス可
 シ
 (家意)
 治罪法第六十
 二條
 檢事ハ二月毎
 ニ豫審及ヒ公
 判ノ未決既決
 ノ事件表ヲ作
 リ控訴裁判所
 檢事長ニ差出
 スベシ
 又違警罪裁判

京始審裁判所ノ管轄ト相定明治十
 五年一月一日ヨリ施行候條此旨布
 告候事
 ○同第五十九号 同十月八日
 治罪法中豫審判事勾引状ヲ発シ勾
 引セシメタル被告人ハ時宜ニ依リ
 其訊問期限四十八時間ニ在ル夜間
 ニ限リ裁判所又ハ最寄警察署留置
 場ニ入置クヘシ此旨布告候事
 ○同第七十一号 同十二月二十八日
 治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開
 ク時ハ當分ノ内其所在ノ地警部ヲ
 シテ檢事ノ職務ヲ代理セシム
 ○同第七十三号 同十二月二十八日

ニ限リ留置場ニ入
 置クモノトス留置
 場ハ未決監ナリ犯
 罪人ヲ入置ク場所
 ニアラズ監獄則第
 一條ノ第一款ヲ見
 ルベシ

所檢察官ヨリ
 差出シタル事
 件表ヲ同持ニ
 檢事長ニ差出
 シ且意見アル
 時ハ之ヲ附記
 ス可シ
 事件表ニハ裁
 判所長認印シ
 且意見アル時
 ハ之ヲ附記ス
 可シ

治罪法ニ於テ無能力者法律ニ定メ
 タル代人及ヒ民事擔當人ト稱スル
 者ハ左ノ通
 無能力者
 一 未丁年者 二 妻タル者
 三 白痴瘋癲人 四 治産ノ禁ヲ受タ
 ル者
 法律ニ定メタル代人
 一 未丁年ノ父若クハ母又ハ親屬後
 見人 二 夫タル者 三 白痴瘋癲人
 ノ保管者 四 治産ノ禁ヲ受タル者
 ノ財産管理人
 民事擔當人
 一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ同居
 ノ親屬ニシテ監督ヲ爲ス者 二 夫

タル者 三白痴瘋癲人ノ保管者
四雇主 但雇人其雇主ノ命シタル
事件ヲ行フ時

○同第七十六号 十二月二十八日

本年十月第五十三号布告裁判所名
稱區畫表始審ノ行中相川豊岡洲本
田邊脇町高山西郷平戸福江嚴原天
草大曲八戸ノ名稱ヲ削除シ其管轄
ハ相川ヲ新潟ニ豊岡ヲ姫路ニ洲本
ヲ神戸ニ田邊ヲ和歌山ニ脇町ヲ徳
嶋ニ高山ヲ岐阜ニ西郷ヲ松江ニ平
戸福江嚴原ヲ長崎ニ天草ヲ熊本ニ
大曲ヲ秋田ニ八戸ヲ弘前ニ合併ス
○同第七十七号 同十二月二十八日

本年十月第五十四号ヲ以テ輕罪ニ
シテ豫審ヲ要セサルモノニ限リ治
安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開ク
ヲ得ヘキ旨布告候處當分ノ内相川
豊岡洲本田邊脇町高山西郷平戸福
江嚴原天草大島大曲八戸ノ各治安
裁判ニ於テハ輕罪裁判所ヲ開キ總
テノ輕罪ヲ裁判スルコトヲ得ヘシ
但本文ノ場合ニ於テ訟廷内治罪
ノ手續等ハ本年第五十四号布告
但書ノ通タルヘシ
○同第七十八号 同十二月二十八日
重罪裁判所管轄區畫別紙ノ通相定
ノ明治十五年一月ヨリ之ヲ施行ス

但治罪法第七十二條ニ從ヒ管内
便宜ノ裁判所ニ於テ一ヶ所又ハ
數ヶ所開廳スヘシ

重罪裁判 管轄

東京重罪裁判所	管轄	東京始審裁判所管轄ノ地
神奈川重罪裁判所	同	横濱始審裁判所管轄ノ地
新潟重罪裁判所	同	新潟高田長岡新田始審裁判所管轄ノ地
埼玉重罪裁判所	同	浦和 熊谷始審裁判所管轄ノ地
千葉重罪裁判所	同	千葉 水更津始審裁判所管轄ノ地
栃木重罪裁判所	同	栃木 宇都宮始審裁判所管轄ノ地
群馬重罪裁判所	同	前橋始審裁判所管轄ノ地
茨木重罪裁判所	同	水戸 土浦始審裁判所管轄ノ地
山梨重罪裁判所	同	甲府始審裁判所管轄ノ地
静岡重罪裁判所	同	静岡 濱松始審裁判所管轄ノ地

長野重罪裁判所	同	松本 長野 上田始審裁判所管轄ノ地
大阪重罪裁判所	同	大阪 堺 奈良始審裁判所管轄ノ地
京都重罪裁判所	同	京都 園部 宮津始審裁判所管轄ノ地
兵庫重罪裁判所	同	神戸 姫路始審裁判所管轄ノ地
和歌山重罪裁判所	同	和歌山 始審裁判所管轄ノ地
滋賀重罪裁判所	同	大津 彦根始審裁判所管轄ノ地
德島重罪裁判所	同	德島 始審裁判所管轄ノ地
岡山重罪裁判所	同	岡山 津山 始審裁判所管轄ノ地
福井重罪裁判所	同	福井 始審裁判所管轄ノ地
石川重罪裁判所	同	金澤 富山 七尾 始審裁判所管轄ノ地
高知重罪裁判所	同	高知 中村 始審裁判所管轄ノ地
愛媛重罪裁判所	同	松山 高松 宇和島 始審裁判所管轄ノ地
長崎重罪裁判所	同	長崎 佐賀 始審裁判所管轄ノ地
福岡重罪裁判所	同	福岡 始審裁判所管轄ノ地

問答註釋 治罪法

熊本重罪裁判所	同	熊本始審裁判所管轄地
大分重罪裁判所	同	大分中津始審裁判所管轄地
鹿島重罪裁判所	同	鹿島 宮崎始審裁判所管轄地 沖繩縣管轄地
函館重罪裁判所	同	函館始審裁判所管轄地(札幌根室本支廳管轄地)
青森重罪裁判所	同	弘前始審裁判所管轄地
愛知重罪裁判所	同	名古屋岡崎始審裁判所管轄地
岐阜重罪裁判所	同	岐阜始審裁判所管轄地
三重重罪裁判所	同	安野津 山田始審裁判所管轄地
宮城重罪裁判所	同	仙臺始審裁判所管轄地
福島重罪裁判所	同	福島若松平 白川始審裁判所管轄地
磐手重罪裁判所	同	盛岡 磐井始審裁判所管轄地
山形重罪裁判所	同	山形 米澤 酒田始審裁判所管轄地
秋田重罪裁判所	同	秋田始審裁判所管轄地
廣島重罪裁判所	同	廣島 尾道始審裁判所管轄地

山口重罪裁判所	同	山口始審裁判所管轄地
島根重罪裁判所	同	松江 濱田始審裁判所管轄地
鳥取重罪裁判所	同	鳥取 米子始審裁判所管轄地

○同第七十九号 同十二月二十八日

各裁判所ノ位置及ヒ管轄區畫ノ儀
十月第五十三号ヲ以テ布告候處北
海道(函館始審裁判所管內ヲ除ク并
ニ沖繩縣ノ儀ハ當分從前ノ通其所
轄ノ官廳ニ於テ裁判シ治罪ノ手續
モ便宜ノ取計ヲ爲スベシ
但控訴ノ儀北海道ハ函館控訴裁
判所沖繩縣ハ長崎控訴裁判所ノ
管轄ニ屬ス

○太政官第壹号 明治十五年
一月十日

問答註釋

治罪法

治罪法第三百八十一條第一項ニ若シ辯護人ナクシテ辯論ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ノ効ナカルヘシト有之候得共其裁判所々屬ノ代言人無之場所ニ於テハ當分ノ内辯護人ヲ用ヒザルモ其刑ノ言渡ハ無効ノ限リニ在ラス

○同第七号 同二月二日

治罪法第十九條第二項海上路程ノ猶豫ハ陸路四里ノ割合ヲ以テ一日ヲ加フモノト定ム

諸達ノ部

○太政官第七十七号 十四年八月三十一日

刑法第四百三十條ニ依リ各地方ノ便宜ニ從ヒ違警罪目ヲ定メ發行

シタル時ハ之ヲ主務省ヘ届出ツヘシ

○同第八十二号 同九月二十日

司法官吏ヨリ巡查及ヒ兵員ヲ要求使用スニハ左ノ手續ニ從フヘシ此旨相達候事

第一條 裁判官檢察官及ヒ司法警察官治罪法ニ從ヒ檢證及ヒ物件差押其他職務ヲ行フニ當リ必要ナル時ハ警察署又ハ憲兵屯營ニ照會シテ巡查又ハ憲兵卒ヲ使用スルヲ得

但時機緊急ナル時ハ直チニ之ヲ使用スルヲ得

第二條 前條ノ場合ニ於テ事緊急重要ニ涉ル時ハ直チニ鎮臺又ハ分營ニ照會シテ兵力ヲ要求スルヲ得

○同第八十六号 同十月四日

治罪法實施ニ付テハ大審院其他各裁判所公廷取締ノ使用ニ供スルタメ其院長所長ノ照會ニ應シ一名又ハ數名ノ巡查爲相結又拘留被告人審問中ハ其護送ノ巡查或ハ押丁ヲシテ守卒ニシテ

公廷ニ入り看護セシムヘシ此旨相達候事

○同第十号 明治十五年二月一日

明治六年(十一月)第三百九十一号并同十年(七月)第四十九号ヲ以テ
囚人護送規則及ヒ逸傳方相達置候處今般更ニ別冊ノ通囚人
護送逸傳方改正シ本年七月一日ヨリ施行候條從前達中矛盾
ノ廢ハ同日限廢止ス此旨相達候事

囚人護送手續

第一條 甲廳ヨリ乙廳又ハ集治監ヘ送移スル囚人ハ囚藉及ヒ處
刑宣告書所持ノ物品ヲ併セ 治道警察本分署ニ於テ逸傳護送ス
ヘシ

但一府縣管内本支監獄ノ間ニ護送スル囚人モ其距離十里以外
ニ至ルモノハ本文ニ準スルヲ得

第二條 新夕ニ就捕セシ犯罪人及ヒ諸令狀ニ據リ引致スル刑事被
告人又ハ脱走ノ軍人軍屬ノ逸傳護送ヲ要スル者モ前條ノ手續ニ

準スヘシ

但入監後糺問等ノ爲メ所在ノ法衙ニ往復スルハ本條ノ限ニ在
ラス

第三條 第一條第二條ノ護送ニ付スル囚人ノ員數及ヒ発出日特
ハ其當該官吏ヨリ前以テ治道警察本分署ヘ逸報スヘシ

第四條 護送囚人ノ數ハ一行十名以下トス護送警吏及ヒ繩取ノ
人員ハ適宜タルヘシ但便利海路ニヨルトキハ適宜囚人ヲ增加ス
ルヲ得

第五條 逸傳護送ハ日出ヨリ日没マテヲ限トス

第六條 警察本分署ニ於テハ護送囚人ノ郷貫氏名刑名又ハ犯罪
見込書ノ要領及ヒ着発日時ヲ記載シ置クヘシ

第七條 護送囚人ハ治道警察本分署ニ宿セシムベシ若シ支障アル
時ハ該地戸長ニ照會シ宿所ヲ定メ適宜取締ヲナスヘシ

第八條 護送途中囚人病発スルハ治道警察本分署ニ付シ治療

スヘシ若シ死去スルハ該地戸長ニ埋葬ヲ囑シ引取人アル者ハ之ニ下付ス醫師ニ死去証書ヲ作ラシメ戸長及ヒ護送警吏連印シ書類物品ヲ併セ送達スヘキ衙署ニ送付シ仍ホ発出衙署ニ報知スヘシ

第九條 護送途中囚人逃亡スルハ先ツ緝捕方ヲ最寄警察本分署ニ報告シ仍ホ発出衙署及ヒ送達スヘキ衙署へ報告スヘシ但第八條及ヒ本文ノ手續ヲ爲スタノ他囚護送ヲ遅緩ス可ラス若シ速ニ手續ヲ了シ難キ場合ハ最寄警察本分署ノ助力ヲ請フヲ得

第十條 逸傳護送スル警察官吏ノ旅費ハ都テ治道地方ノ警察費ヲ以テ支辨スヘシ但繩取ノ雇給ハ第十第十十一第十二條ノ區別ニ依リ囚人ニ属スル費用中ニテ支辨スヘシ

第十一條 第一條ニ掲グル囚徒ニ属スル護送中ノ費用ハ明治十四年第十七号布告ニ依リ區分シ集治監ニ送ル時ハ治道府縣ノ

仕拂ニ立テ其他ハ出発府縣ノ監獄費ヨリ支拂フヘシ

第十二條 第二條ニ掲グル各犯人ニ属スル護送中ノ費用ハ治道地方警察費ヲ以テ支辨スヘシ

第十三條 護送囚人死歿シ引取人ナキモ其所持金錢物品埋葬費ニ足ルモノアル者及ヒ軍人軍屬ノ埋葬費ハ第十一條第十二條支辨ノ限ニアラス尤モ其費額ハ都テ拾圓以内タルヘシ

但軍人軍屬ノ分ハ追テ陸軍省ヨリ拂戻スヘシ

第十四條 逸傳ニ係ル囚人犯罪人ノ賄費額ハ警察本分署ニ於テハ都テ拘留人ノ例ニ依ルヘシ他ニ宿泊セシムル時ハ一宿二賄臥具點燈手數料ヲ合セテ金二十五錢以下一晝食金七錢以下藥價診察料等ハ實費支辨スヘシ

○司法省甲第五号 十四年十月十日

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシムル儀モ之アルヘク候條此旨布達候事

○同丙第十三号 同十月十日

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ不得止場合ニ於テハ
巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシメ不苦候條此旨相違候事

但代理ヲ命スヘキ巡查ノ姓名ハ豫シメ其地方輕罪并ニ違警罪
裁判所へ通牒致シ置候儀ト心得ヘシ

○同丁第十八号 十月二十七日

書記局其他訟廷等ノ掌務心得書別紙ノ通相違候事

書記局其他訟廷等ノ掌務心得書

第一條 書記局諸般ノ事務ハ各負輪轉之ヲ執リ豫メ其主掌ヲ定
メス

第二條 訟廷ノ取締被告人扣所ノ看守ハ巡查獄卒等ヲシテ之ヲ
掌ラシムヘシ

第三條 訴訟口誥ハ雇員ヲ以テ之ニ充テ訴訟人呼入其他訟廷ニ關
スル雜事ノ使用ハ小使ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第四條 門候ヲ置クト否トハ其廳ノ便宜ニ任ス若シ之ヲ置クト
キハ雇員又ハ小使ヲ以テ之ヲ掌ラシムヘシ 但東京各裁判所
ハ此限ニ在ラス

第五條 宿直ハ等外吏員雇員等ニテ之ヲ務メシメ在宅當番退廳
後ヲ云フハ判任官ニテ順次之ヲ務メシムヘシ

但東京裁判所ハ此限ニ在ラス

○同甲七号 同十二月二日

治罪法第三百十五條裁判言渡ノ謄本又ハ其拔書ヲ求ムル者ハ其
用紙一枚金三錢ノ費用ヲ上納スル儀ト可心得此旨布達候事

○同甲第八号 同十二月二日

所屬代言人規則

第一條 治罪法中所屬代言人ト稱スルハ大審院及ヒ各裁判所々
在ノ地ニ住居スル免許代言ヲ云フ

第二條 裁判官ノ職權ヲ以テ選任シタル代言人辯護人ハ正當

ノ事由ヲ証明スルニアラサレバ之ヲ得ス

第三條 代官ハ辯護受任中ハ代官免許満期ニ至リ引續營業セス
又ハ廢棄スト虽モ該事件終結ニ至ル迄其代官辯護ヲ擔當ス
ル

第四條 代官又ハ辯護受任中ハ他ノ訴訟事件ヲ以テ其任ヲ關シ
トヲ得ス

第五條 裁判官ノ職權ヲ以テ代官人辯護人ヲ選任シタル場合ニ
於テモ其謝金ハ被告人之ヲ擔當スヘシ

總テ謝金ニ付テハ出訴スルヲ許サス
○同丙第十五号 同十二月五日

治罪法實施シ上ハ豫審判事檢証及ヒ物件差押ノ事件ニ付急速ヲ
要スル場合ニ巡査ヲ同行シ又ハ所在ノ巡査ヲ使用スル儀モ
可有之候條ニ可達置此旨相達候事

○同丙第十六号 同十二月五日

治罪法中犯人証人等押印ノ條々實印無之者ニ限り從來ノ慣例ニ
依リ拇印爲致候義ト心得ヘシ此旨相達候事

○同丁第二十五号 五日

治罪法第四百六十二條第二項罰金科料裁判費用及沒收物品ノ徵
收ハ書記局ニ於テ之ヲ擔當シ會計主任ヘ引渡ス儀ト可心得此旨
相達候事

○同丁第二十六号 五日

使丁規則別冊ノ通相定候條明治十五年一月一日ヨリ施行致スヘク此旨
相達候事

使丁規則

第一條 各裁判所書記局ハ刑事民事ニ關スル召喚狀其他書類ヲ送達
セシムル爲メ其請負人ヲ定メ之ヲ使丁取締トス使丁取締ハ一人ト
ス但場所ニ因リ二人以上ヲ命スルヲアルヘシ

第二條 使丁ハ使丁取締之ヲ撰ヒ其氏名ヲ書記局ニ届出鑑札ヲ受ル

モノトス

使丁ノ人負ハ使丁取締適宜之ヲ定メ書記局ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 使丁取締ハ送達ノ事ニ付總テ其責ニ任スルモノトス

第四條 使丁取締ハ常ニ裁判所ニ在テ送達ノ事ヲ取扱フヘシ

第五條 使丁ハ送達ヲナス時裁判所ノ鑑札ヲ帶行スヘシ

第六條 送達ヲナスニハ其法律規則ニ從フヘシ

第七條 使丁取締及ヒ使丁ハ訴訟ニ付キ代人トナリテ訟廷ニ出ルコト

ヲ許サス

第八條 送達ノ事ニ關シ他人ニ損害ヲ被ラシメタル時ハ使丁取締其償ヲ求當スヘシ

但使丁ノ過失懈怠ニヨル時ハ使丁取締ハ之ニ對シ更ニ其償ヲ求ムルコトヲ得

第九條 送達賃錢ハ書類ノ大小ニ拘ハラス一通ニ付一里五錢以下トス

賃錢ノ定限ハ使丁取締之ヲ申立書記局之ヲ決シ且送達書ニ其賃錢高ヲ

附記スヘシ

第十條 賃錢ノ定限ハ其取扱所ニ貼示シ三日以上新聞紙ニ掲載シ

又其他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第十一條 刑事ニ付テノ送達賃錢ハ其送達ヲ受ルモノヨリ之ヲ

拂置クヘシ

但左ノ場合ニ於テハ書記局ヨリ之ヲ拂置ク可シ

一 檢察官又ハ裁判官ヨリ呼出ス証人鑑定人通事ノ呼出狀

二 檢察官ノ控訴申立テ被告人ヘノ通知及呼出狀

三 檢察官ヨリ被告人ヘ送達スル上告申立書及ヒ趣意書

第十二條 刑事附帶ノ私訴及ヒ民事ニ付テノ送達賃錢ハ總テ其

送達ヲ請求スル者ヨリ之レヲ拂フヘシ

第十三條 送達賃錢ニ付テノ訴訟ハ其書類ヲ發シタル裁判所ニ

之ヲナスヘシ

第十四條 使丁取締ハ書類送達ヲ正實ニ取扱フヘキ旨ノ書面ヲ

三十八

附記スヘシ

但左ノ場合ニ於テハ書記局ヨリ之ヲ拂置ク可シ

一 檢察官又ハ裁判官ヨリ呼出ス証人鑑定人通事ノ呼出狀

二 檢察官ノ控訴申立テ被告人ヘノ通知及呼出狀

三 檢察官ヨリ被告人ヘ送達スル上告申立書及ヒ趣意書

第十二條 刑事附帶ノ私訴及ヒ民事ニ付テノ送達賃錢ハ總テ其

送達ヲ請求スル者ヨリ之レヲ拂フヘシ

第十三條 送達賃錢ニ付テノ訴訟ハ其書類ヲ發シタル裁判所ニ

之ヲナスヘシ

第十四條 使丁取締ハ書類送達ヲ正實ニ取扱フヘキ旨ノ書面ヲ

三十八

附記スヘシ

書記局へ差出スヘシ

第十五條 使丁取締ハ及使丁此規則ニ違背シタル時裁判書記局ハ使丁取締ニ左ノ條件中ニテ相當ノ言渡ヲ爲スヘシ

一 二十圓以下ノ違約金ヲ納メシムルコト

二 解職セシムルコト

三 事情重キ者ハ違約金ヲ納メ解職セシムルコト

第十六條 使丁取締タルニハ其ノ裁判所々在地ニ家屋ヲ有シ滿二十一才以上ノ者ニシテ書記局ノ試験ヲ經ルコトヲ要ス

使丁取締タルニハ身元保証トシテ金五十圓以上ノ格價アル公債証書地券又ハ銀行其他官許アル株券證書ヲ書記局ニ納ムヘシ

但此保証金ハ解職ノ時下戻スヘシ

第十七條 試験ハ書記二名以上ニテ之ヲ爲ス可シ

但書記不足ナルハ雇ヲ以テ之ニ充ツ可シ

試験ノ科目ハ左ノ如シ

一 使丁規則 二 請負郡村ノ地名又ハ里數 三 普通書簡ノ書類

第十八條 實決ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ身代限ノ處分ヲ受ケ未

タ辨償ヲ終ラサル者ハ使丁取締又ハ使丁タルコトヲ許サス

○同丁第二十七号 同十二月九日

本年第五十四号(一)第十七号ニ載スル公布ニ依リ治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開クハ其管轄輕罪裁判所ノ名稱ヲ用ヒ其印ヲ捺シ其治安裁判所ニ於テスルコトヲ附記スヘシ左ニ雛形相添此旨相達候事

書式雛形

於八王子治安裁判所

横濱輕罪裁判所

印章雛形

横濱輕罪裁判所

○同丁第二十八号 同十二月十二日

治罪法中ニ掲ケタル送達狀呼出狀召喚狀勾引狀勾留狀收監狀及宣誓書式別紙ノ通り相達候條右ニ照準ス可シ此旨相達候事

用紙美濃ノ類 輪廓寸法凡 堅七寸五分 横寸四分

括弧内朱書

送達書

一送達スヘキ書名 壹冊
一同 壹冊

右使丁ヲ以テ一何府縣下何町又ハ何國何郡何村何番地何某ニ送達セシムル者也

明治 年月

何裁判所ノ印

〔何〕裁判所

書記〔氏名印〕

右致送達候也

使丁〔氏名印〕

割印

送達書呼出狀引狀勾引狀留狀收監狀ノ六種ハ茲ニ中斷セシ一葉ヲ全載シ他一葉ハ同式ニ付略之

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人ハ渡シ

一葉ヲ書記局ニ還納ス

呼出狀

〔住所身分職業〕

氏名

右云々ノ事件ニ付證人トシテ相尋ル儀有之來ル何月日時何所ニ出頭可致者也但同日時出頭セサルニ於テハ罰金ヲ告渡シ且勾引狀ヲ發スル可シ

明治 年月

何裁判所ノ印

〔何〕裁判所

豫審判事〔氏名印〕書記〔氏名印〕

此呼出狀ハ出頭ノ節書記局ニ差出ス可シ

受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事

由

送達シタル月日時

送達シタル場所

親屬雇人若シハ戸長ニ渡シタル時ハ其事

由

右之通取扱候也

明治 年月日

使丁〔氏名印〕

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人ハ渡シ一葉ヲ書記局ニ還納ス

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人ハ渡シ一葉ヲ書記局ニ還納ス

召喚状

〔住所身分職業〕

〔氏名〕

右〔云々〕ノ事件ニ付訊問ノ筋有之何月日時當裁判所ニ出頭可致者也

明治 年月

〔何裁判所之日印〕

〔何裁判所〕

豫審判事〔氏名印〕

書記 〔氏名印〕

〔判印〕

受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由

送達シタル月日時

送達シタル場所

親族ノ人若シハ戸長ハ書類ヲ渡シタル時ハ其事由

右之通取扱候也

明治 年月 日

使丁〔氏名印〕

是ヲ中断シテ一葉ヲ受取人ヘ渡シ一葉ヲ書記局ヘ還納スヘシ

〔檢事官印〕 勾引状

〔住所身分職業〕

〔氏名〕

〔若シ氏名分明ナラサルハハ容貌体格等〕

右〔云々〕ノ事件ニ付訊問ノ筋有之當裁判所ニ勾引ス可キ者也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治 年月

〔何裁判所之日印〕

〔何裁判所〕

豫審判事〔氏名印〕

書記 〔氏名印〕

〔判印〕

勾引シタル被
告人ノ署名捺
印若シ能ハサル時ハ其事由

執行シタル月日時

執行シタル場所

執行ノ手續

家宅搜索ノ爲ニシタル時ハ其事由

勾引スルノ能ハサル時ハ其事由

右之通取扱候也

明治 年月 日

〔巡查又ハ憲兵氏名印〕

是ヲ中断シテ一葉ヲ受取人ヘ渡シ一葉ヲ書記局ヘ還納スヘシ

〔檢事官印〕 勾 留 狀

〔住所身分職業〕

(氏名)

〔若シ氏名分明ナラサルハ容貌體格等〕

右云々ノ件ニ付治罪法第百二十六條ノ規則ニ從ヒ何所監倉ニ勾留ス可キ者也但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治 年 月

〔何裁判所之日時印〕

〔何裁判所〕

豫審判事 (氏名印)

書 許 (氏名印)

〔判印〕

執行シタル日時	執行シタル場所	執行ノ手續	家宅搜索スル時ハ其由	勾留スルハ其由	右之通取扱候也
〔被告人ニ正本ヲ示シ贖本ヲ下付ス〕					

是ヲ中断シテ一葉ヲ受取人へ渡し一葉ヲ書記局へ還納ス

〔檢事官印〕 収 監 狀

〔住所身分職業〕

○未遂犯ニ付減等○未丁年ニ付減等

○自首ニ付減等○再犯ニ付加重

〔若シ氏名分明ナラサルハ容貌體格等〕

右云々ノ事件ニ付取調ヲ爲シタル處本罪刑法第何條ニ該ル可キ者ト思料ス依テ檢事ノ意見ヲ聽主何所監倉ニ収監ス可キ者也但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治 年 月

〔何裁判所之日時印〕

豫審判事 (氏名印)

〔判印〕

執行シタル月日時	執行シタル場所	執行ノ手續	家宅搜索スル時ハ其由	収監スルハ其由	右之通取扱候也
〔被告人ニ正本ヲ示シ贖本ヲ下付ス〕					

是ヲ中断シテ一葉ヲ受取人へ渡し一葉ヲ書記局へ還納ス

宣誓書

何々々々事件ニ付
 愛憎畏懼心
 通譯陳述鑑定
 不可キテ正誓フ
 通事氏名印

明治年月日

通事氏名印

○同丁第三十号 同十二月十四日

裁判所

裁判所印章ノ儀來明治十五年一月一日以後左ノ通改定候條各廳ニ於テ調製シ印鑑ヲ以テ可届出此旨相達候事

印章雜形

何方一尺五寸
 何々
 控許
 裁判所

控訴
 始審
 治安
 經罪
 違警
 裁判所
 各一顆ヲ彫刻ス

字体ハ篆書ヲ用ヒ認易キヲ要トス且文字ノ數ニ據リ或ハ之印ノ字ヲ刻スルモ妨ケナシ

○同丁第三十一号 同十五日

本年本月甲第七号布達裁判言渡ノ謄本又ハ拔書ヲ求ムル者代價ノ儀無資力ニシテ上納スル能ハサル者ニ限り無代價ニテ下渡スモ不苦儀ト可心得此旨相達候事

○同丙第十九号 同十九日

警察署ニ於テ審判シタル違警罪事件表并既決犯罪表別紙様式ニ照準シテ調成ス可シ尤違警罪事件表ハ治罪法第五十二條ニ從ヒ差出ス儀ト可心得此旨相達候事

○治罪法第五十二條違警罪事件表式
○甲ハ朱書
 用紙美濃ノ類

明治何年何月中何警察署警察分署違警罪既決未決事件表

違警罪	總數	既濟	未濟
	舊受新受無罪免訴調渡ノ管轄違棄却消滅願下		
件數			
何月何日調			

檢察官 氏名印

關詰註釋 台罪去

何月何日閱

署官長 氏名印

○檢察官意見アル片ハ表末ニ記載ス可シ但シ長文ニ渉ル片ハ別紙ニ記スルモ可ナリ左ニ一ニノ文例ヲ示ス

○犯罪事件前表ニ比スレハ若干ノ増加アルハ近來管内ニ某事業興起シタルニ因リ人口輻輳スルニ原由セリト思考ス

○又ハ犯罪事件斯ク増加スト雖凡過半ハ何々ノ一ニ關スル犯罪ナルヲ以テ久シカラスシテ常ニ復ス可シト思考ス

○又ハ何月以來未決事件ノ増加セシハ係リ官員疾病或ハ何々ニ因リ何月以來事務ヲ執ル一能ハサルニ由ル

○又ハ事件ノ減少スルハ何々ニ原由セリ因テ久シカラステ増加ヲ見ルニ至ル可シト思考ス

○署長意見アラハ亦前文ニ準ス

○治罪法第四百六十四條既決犯罪表式

何警察署(警察分署)既決犯罪表(横線下朱書)

氏名		年齢	職業	住所	出生地	本籍	罪名	刑名	犯数	裁判言渡年月日	對審關席區別
伊藤某		何年何月	何々	何路何路何路	同上	同上	竊盜	重禁錮何年或ハ(何月)	初犯(或ハ再犯)	何年何月何日	對審裁判(或ハ關席裁判)

此表一葉一人ヲ記載シ(イロハ)順序ヲ以テ氏名ヲ區別シテ編綴シ探討ニ便ニス可シ表中ノ朱書ハ記載ノ一例ヲ示スモノナレバ(口)以下モ之ニ準ス可シ

○同丁第三十三号 同十九日

刑事裁判言渡ヲ犯人ノ本籍へ通知シ及ヒ犯人前科取調ノ儀是迄區々相成居候處來明治十五年一月ヨリ左ノ通可相心得此旨相達候事

刑事裁判言渡アリタル片ハ治罪法第四百六十四條ニ掲クル決犯罪表寫ヲ犯人本籍ノ地ノ輕罪裁判所檢事ニ送致ス可シ右送致ヲ受タル檢事ハ其旨ヲ犯人本籍ノ地ノ戶長ニ通知シ該表ハイロハ標號ニ從ヒ區別編纂致置可シ

犯罪人ノ前科取調ヲ要スル片ハ犯人本籍ノ地ノ輕罪裁判所檢事ニ照會シ檢事ハ編纂致置タル既決犯罪表寫ヲ送致ス可シ

既決犯罪表

イ號

何裁判所

イ號目錄

伊藤某
生駒某
飯塚某

一丁

二丁

三丁

(以下廿二空罫ニ付路ス)

何裁判所既決犯罪表

伊藤某

氏名	伊藤某
年齢	何年何月
職業	何々
住居	所何 區何 町何
出生地	同上
本籍	同上
犯罪名	窃盜
刑名	重禁錮何年(或ハ何月)
犯數	初犯(或ハ再犯)

號	裁判言渡ヲ爲 シタル年月日	何年何月何日
對審關席區別	對審裁判(或ハ關席裁判)	

イ號

此表治罪法第四百六十四條ニ依リ裁判言渡確定シ又ハ關席裁判アリタル時其言渡ヲ爲シタル裁判所ノ書記之ヲ作ルモノトス但一葉一人ヲ記載シ(イロハ)ノ順序ヲ以テ氏名ヲ區別シテ之ヲ編綴シ探討ニ便ス可シ

表中ノ朱書ハ記載ノ一例ヲ示スモノナレハ(ロ)以下モ之ニ準ス可シ

○同丁第三十四号 同二十三号

治罪法第五十二條第六十八條第七十六條第八十二條第四百六十四條表式別紙ノ通相定候條右ニ照準シテ調成ス可シ此旨相違條單但明治十年丙第十七号違犯罪未決件數表丁第六十二號違犯罪糺門表ハ來ル十五年一月一日ヨリ廢止候事

○同丙第二十号 同廿八日

新法實施後ハ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル刑法第六十二條ノ令狀ハ總テ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ始審裁判所檢事ヨリ發スル儀ト可心得此旨相違候事

○同丁第五号 十五年一月十六日

始審裁判所

今般刑法治罪法實施ニ就テハ今後刑事裁判統計表ノ材料ニ供候間別紙表式ニ準シ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日マテノ豫審事件ヲ記載シ翌年二月マテニ取纏メ差出スヘク此旨相違候事但治罪法ニ拘ハラズ從前ノ規則ニ從ヒ處分セシ者ハ件數及人員ノミテ別紙ニ記載シ可差出又公判ノ條件ハ追テ相違候マテハ從前ノ箇條ニ從テ取調置クヘキ事

(別紙表式略ス)

○同丙第一号 同十六日

今般刑法治罪法實施ニ付テハ今後刑事裁判統計表之材料ニ供候間別紙表式及書例ニ準シ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日マテニ違警罪

事件ヲ記載シ翌年二月マテニ取纏メ差出ス可ク候條此段相違候事
違警罪裁判所

公判第一表(此表ハ違警罪ノ公判ニ係ル件數及人員ヲ記載スル者トス)

第一欄 此欄ニハ刑法第四百二十五條以下ノ各項ニ從テ犯罪ノ性質ヲ詳カニ記載スル者トス此他各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪モ亦實際ノ罪狀ヲ詳明ニ記載スルコトヲ要ス以下各表中犯罪ノ性質ヲ記スヘキ欄ハ皆之ニ倣フヘシ

但初ノニ男ノ罪狀ヲ條列シ次ニ女ノ罪狀ニ及フヘシ

第二欄 此欄ニハ表目ノ如ク一項ニ前年ヨリ越高ノ件數アレハ之ヲ記シ本年受理ノ件中一節ハ治罪法第三百二十一條ノ一項ニ係ル者ニシテ二節以下ハ同條二項ヲ區分シテ記載スル者ナリ

第三欄 此欄ニハ前年ノ殘件中ノ人員ト本年受理中ノ人員トヲ區分記載スヘシ

第四欄 此欄ニハ對審ト缺席裁判トノ人員ヲ區分記載スヘシ

第五欄 此欄ニモ亦書例ヲ舉ル如ク裁判言渡ニ從テ被告人員ヲ記載スヘシ

違警罪裁判所

公判第二表 此表ハ公判庭内ニ於テ犯セシ違警罪ノ公判ニ係ル件數及ヒ人員ヲ記載スル者トス

此表ハ第二欄ノ一項ヲ除ク外總テ一表ノ例ニ依ルヘシ

別號第一表 此表ハ科料言渡及ヒ裁判費用ニ係ル總數ヲ記載スル者トス

此表ノ書例ハ既ニ各條ニ付テ説明スルカ如シ但証人等ノ科料言渡ヲ取消シタル者ハ其人員及金額ヲ記スルニ及ハス

別號第二表 此表ハ囑託ヲ受ケシ總數ヲ舉テ其執行時間ヲ區分スル者トス

第一欄 此欄ハ既ニ書例ヲ舉ル如シ然レ若シ三月以上ニ至ル者アル時ハ其箇條ヲ附加スヘシ

第二欄 以下第二欄ニハ前年ノ殘件ト本年ノ新件トヲ區分シテ總件數ヲ舉ル者トス但本表欄外既ニ説明セシ期限ニ從テ記載スルコトヲ要ス

問答諸種 治罪法

即チ前年ノ項中囑託ノ到着セシヨリ本年一月十日マテニ執行報知シテ其日數十五日トナルノ類ハ之ヲ上欄第二ヶ條ノ下ニ記スルカ如シ以下ノ書例皆之ニ準スヘシ

何違警罪裁判所

公判第一表

前年	本年	本年		前年		本年		本表ハ違警罪ノ公訴ニ係ル者ナリ 件數ハ記載スル者ナリ
件	件	件	件	件	件	件	件	
検察官ノ請求ノ判決	検察官ノ請求ノ判決	官ノ判事ノ判決	官ノ判事ノ判決	官ノ判事ノ判決	官ノ判事ノ判決	官ノ判事ノ判決	官ノ判事ノ判決	
件	件	計	計	計	計	計	計	被告ノ人数
件	件	件	件	件	件	件	件	
件	件	件	件	件	件	件	件	
件	件	件	件	件	件	件	件	被告ノ人数
件	件	件	件	件	件	件	件	
件	件	件	件	件	件	件	件	
件	件	件	件	件	件	件	件	被告ノ人数
件	件	件	件	件	件	件	件	
件	件	件	件	件	件	件	件	
件	件	件	件	件	件	件	件	被告ノ人数
件	件	件	件	件	件	件	件	
件	件	件	件	件	件	件	件	
件	件	件	件	件	件	件	件	被告ノ人数
件	件	件	件	件	件	件	件	
件	件	件	件	件	件	件	件	

一、前年 本年 本年 前年 本年 前年 本年

二、本年 前年 本年 前年 本年 前年 本年

三、本年 前年 本年 前年 本年 前年 本年

四、本年 前年 本年 前年 本年 前年 本年

五、本年 前年 本年 前年 本年 前年 本年

六、本年 前年 本年 前年 本年 前年 本年

七、本年 前年 本年 前年 本年 前年 本年

八、本年 前年 本年 前年 本年 前年 本年

計	女	男

此他若シ十二月三十一日取調中ニシテ翌年ニ越スヘキ件アレハ別ニ欄外ニ於テ件數及人員ヲ區分記載スヘシ

何違警罪裁判所
公判第二表 此表ハ公廷内ニ於テ犯セシ違警罪ノ公判ニ限り記載スヘシ

計	女	男	違警罪		計
			前年	本年	
			件	件	數
			新	殘	
			計		
			前年	本年	被告人員
			員	員	
			計		
			審	對	言渡シタル被告
			席	欠	
			管	轄	處斷區別人員
			無	免	
			違	罪	物
			訴	訴	
			日二十上以日一十	日十上以日六	智
			日五上以日一	以上	
			以下		料
			計		

表中左ノ箇條アル時ハ之ヲ欄外ニ條例シ既ニ違警罪ノ被告
 人タリシ者ト區分スルヲ要ス

一何犯罪ノ條 何處斷ノ内 証人何人
 一何犯罪ノ條 何處斷ノ内 民事原告人何人
 一何犯罪ノ條 何處斷ノ内 代人何人

此他若シ民事擔當人鑑定人等ニシテ既ニ被告人タリシ者ト區分スヘ
 キ者アレハ前條ノ例ニ依リ一々區別シテ記載スヘシ

右ノ外訟廷内ノ違警罪ニシテ十二月三十一日取調中ニシテ翌年ニ越スヘキ件アレハ
 別ニ欄外ニ於テ件數ハ人員ヲ區別別記載スヘシ

一証人呼出ニ應セスシテ科料ヲ言渡シタル者アレハ左ノ各條ニ從ヒ其人
 員及金額ヲ記載スヘシ

一証人呼出ニ應セサル者 人員總計

科料 一圓以上 人員
 全 以下

問答注釋

一証人再度ノ呼出ニ應セサル者 人員總計

科料 三圓以上 人員

此他若シ科料ノ言渡ヲ取消シタル者アル時ハ唯其人員ノミヲ掲載スヘシ

何違警罪裁判所

別號第一表(此表ハ科料ニ係ル人員及金額ヲ總テ記載スル者トス)

科料人員及金額

總數

區別

科料

金額

被告人員

完納 不完納

人員金額 人員金額

人員金額ノ下各共員數ヲ記載スヘシ以下皆同シ
科料ヲ拘留ニ換ヘシ人員
拘留二日 人員
全一日 人員

前條ノ外左ノ各件アレハ其人員及金額ヲ記スヘシ

裁判費用

被告人員

被告人員

賦課金額

給與金額

右給與ノ條ハ官ニテ擔當セシ金額ヲ掲載スヘシ

証人人員

証人人員

賦課金額

給與金額

右証人ノ外裁判ノ費用ニ係ル者アレハ其名稱ヲ掲テ人員及金額ヲ條列スヘシ

何違警罪裁判所

別號第二表

此表ハ囑託ニ係ル總件數ヲ掲ケ兼テ執行時間ヲ示ス者トス此時間ハ囑託ノ着日ヨリ執行若クハ十二月三十一日マテノ期限ナリ

囑託執行時間	囑託件數		執行件數	執行時間
	前年ノ件	本年ノ件		
十日以下				三十日
十一日至二十日				十二日
二十一日至三十日				一月
一月以上				
三月以上				
計				

○同丁第八号 同 十七日

明治十四年丁第三十四號治罪法表式第四號輕罪既決未決事件表裏面治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キタル時ハ云々トアルヲ左ノ如ク改正シ及ヒ左ノ表式ヲ増補候條此旨相達候事

治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キタル片ハ本表ニ準シ其裁判所々在ノ警部之ヲ調成シ管轄ノ輕罪裁判所檢事ハ差出シ輕罪裁判所檢事ハ之ヲ取纏メ左ノ表式ニ準シテ更ニ調成シ管轄ノ控訴裁判所檢事長ニ差出ス可シ

各裁判所

○同丁第九号 同 二十日

十四年甲第七號布達裁判言渡ノ謄本ヲ求ムルモノ上納金并ニ同年丁第二十六号便丁規則第十五條ノ違約金徴收之上ハ雜収入月々本省へ納附候儀ト可心得此旨相達候事

(備考)十四年十二月二日甲第七号布達同月五日丁第二十六号達(全報六十五号八葉十葉)參觀

○同丁第十号 同二十三日

控訴裁判所始審裁判所

客年第八十三號布告ヲ以テ治安裁判所及始審裁判所ノ權限相定メ
ラレ候ニ付テハ治安裁判所ノ裁判ニ對スル控訴ハ始審裁判所ニ於
テ受理スヘキハ勿論ニ候處右布告ヲ知得サル前ニ於テ舊區裁判所
若クハ治安裁判所ノ裁判ニシテ始審裁判所ニ控訴スヘキモノニ對
シ控訴裁判所ニ控訴スル者ハ控訴裁判所ニ於テ之ヲ受理シ管轄始
審裁判所ニ引繼クヘキ儀ト心得ヘシ此旨爲念相違候事

(備考)十四年十二月廿八日第八十三号御布告(全報六十六号十

八葉參觀

○同丙第二号 同二十七日

警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

本年丙第二號ヲ以テ相違候違警罪各表式ニ欄外ニ何違警罪裁判所
ト記載アリト雖當分之内左ノ書例ニ據リ記スル者ト可心得此旨相
違候事

違警罪公判表欄外ノ廳名ハ姑ク左ノ例ニ據ルヘシ

何府縣

又ハ 何府縣

何警察署

何警察分署

○同丁第十一号 同三十日

重罪裁判所印章左ノ雛形ノ通相定候條該裁判所開設ノ地方所在
(控訴始審裁判所ニ於テ調製シ常ニ備置候様可致此旨相違候事
但調製ノ上ハ印鑑ヲ以テ可届出候事

印章雛形

方曲	某々
尺一	重罪
寸五	分
裁判所	

名稱ハ明治十四年
第七十八号布告ニ
據リ

字体ハ篆書ヲ用ヒ成ヘク認易キヲ要ス且地名文字ノ數ニ依リ
或ハ之印等ノ字ヲ刻スルモ妨ケナシ

○同丁第十二号 同三十一日

從來判事檢事出京之節判任官以下適宜隨行為致候儀モ有之候處
自今右隨行之儀ハ不相成候條此旨相違候事

○同丙第三号 同二月六日

處刑ノ者犯由揭示ノ儀ニ付明治七年(五月)當省第九號ヲ以テ相違
置候旨モ有之候處今般新刑法實施ニ付テハ明治十四年(十二月)第
六十七號公布刑法附則第八條ニ據リ自今左ノ通改正候條此旨相
違候事

一死刑ノ宣告アリタルトキハ重罪裁判所書記ニ於テ左ノ雛形ニ
據リ公告案ヲ製シ三日間該廳門前ニ揭示シ且別ニ宣告書ノ
本ヲ製シ犯罪ノ地并犯人住居ノ地方東京ハ警視廳府縣へ速ニ
送達スヘシ

一警視廳府縣ニ於テハ重罪裁判所書記ヨリ死刑宣告書ノ謄本
送達アレハ左ノ雛形ニ據リ犯罪ノ地并犯人住居ノ地何レモ
三日間通衢ニ揭示公告スヘシ

死刑宣告榜示公告雛形

重罪裁判所門前榜示

用紙堅質ノ品ヲ撰用ス

宣告書全文ヲ揭ク

犯罪ノ地又ハ犯人住居ノ地榜示

宣告書全文
右之通宣告相成候ニ付公告
スルモノ也
又ハ 警視總監名
府縣長官名

(備考)十四年十月十九日第六十七号御布告

○同丙第四号 同六日

治罪法ニ定メタル勾引狀ノ期限ニハ總テ休暇ノ日ヲ算入ス可カラス
但平常休暇ナキ官署ニ付テハ此例ヲ用井サル儀ト可心得此旨相違
候事

○同丙第五号 同十三日

檢察官ニ於テ裁判所ノ命令及ヒ言渡ノ執行ヲ指揮スルニ當リ其命令
書若シハ言渡書ノ謄本ヲ要スル時ハ該書記局ニ於テ速ニ其謄本ニ
ハ拔書ヲ作り交付ス可キ儀ト心得可シ此旨相違候事

○同丁第十三号 同十七日

明治十四年第八十二号布告ニ依リ處分セシ刑事件數ハ既決事件
表中ニ記載難致儀モ可有之ニ付左ノ書式ニ準シ表末或ハ別紙ニ
記載スヘシ此旨相違候事

十四年十二月 殘件

何件

内既濟

何件

未濟

何件

糺問件數及ヒ大審院ノ死罪案件數控訴裁判所ノ懲役終身案
件數等ハ本文ニ準シ各別ニ掲クヘシ

(備考)十四年十二月廿八日第八十二号御布告拾遺五十九丁參觀

拾遺

○太政官第十四号布告 十五年二月二十五日

舊開拓使官廳ニ於テ取扱來候裁判事務ハ自今司法裁判所ヲ置キ
之ヲ管理セシム

但裁判所ノ位置管轄及權限等追テ布告候迄從前ノ通タルヘシ

○同第十六号 三月三日

樺戶集治監ノ囚人(假出獄免幽閉ノ者トモ)罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該
ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フベシ
但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

○司法省丙第六号達 二月十四日

始審裁判所檢事ヨリ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ逮捕狀ヲ發スル手續ハ左ノ通心得可シ此旨相達候事

第一條 逮捕狀ニハ典獄ノ報知書ニ依リ第二号書式ニ準シ逃走シタル囚徒ノ本籍身分氏名人相等ヲ詳記ス可シ

但管轄地ノ内外ニ拘ハラヌ急遽ノ際巡查ヲシテ令狀ヲ帶行セシムル時ハ人相ヲ記載セザル妨ナシ

第二條 管轄地内ハ令狀ヲ警察署又ハ警察分署ニ送致シテ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ

第三條 管轄地外ハ第一号書式ニ準シ人相書ヲ作り之ヲ始審裁判所檢事ニ送致シテ逮捕ノ處分ヲ囑託スルヲ得

囑託ヲ受ケタル檢事ハ該人相書ニ依リ自己ノ氏名ヲ以テ更ニ逮捕狀ヲ作り之ヲ管轄記載地内ノ警察署又ハ警察分署ニ配付シテ逮捕ノ處分ヲ爲サシムヘシ

第四條 司法警官ニ於テ逮捕シタル囚徒ヲ受取タル時ハ之ヲ

管轄檢事ニ送致シ檢事ハ其旨ノ囑託ヲ爲シタル檢事ニ照會シ別段ノ事由アルニ非サレハ逮捕ノ地ニ於テ刑ノ執行ヲ爲ス可シ

人相書

〔孤括〕内朱書

〔本籍身分〕
〔氏名〕
〔年齢〕

丈	
顔	
色	
頭髮	
眼	
眉	
鼻	
口	
耳	
齒	
音聲	

明治廿五年

台罪法

明治年月日
何裁判
所之印

何裁判所

檢事氏名印

人相書

右之通取扱候也

明治年月日

巡查又憲兵氏名印

文	
顔	
色	
頭髪	
眼	
眉	

鼻	
口	
耳	
齒	
音聲	
疵痕	
鬚髯ノ有無	
其他特徴	
長所	
父母妻子	
逃走ノ際着用衣服	
同上ノ際持物品	

○同丙第七号達 二月十六日

被告人逮捕ノ地ノ檢察官犯罪ノ地ノ檢察官ニ照會中拘留ノ儀ニ付東京輕罪裁判所檢事大塚盛巍ヨリ別紙甲号ノ通伺出ニ付乙号ノ通内訓ニ及ヒ候條爲心得此旨相達候事

甲号

明治十四年太政官第四十六号ヲ以テ前略犯罪ノ地分明ナル被告
人ト虽モ管轄裁判所ヨリ囑託アリタル時ハ其被告人逮捕ノ
地ノ裁判所之ヲ管轄ス可キ旨御布告相成候處右實際取扱方ノ
儀ハ被告人逮捕ノ地ノ檢察官ニ於テ事件ノ模様ヲ審按シ其被
告人ヲ管轄裁判所ニ送致スルヲ要セスト思科シタル時ハ事案
ノ顛末ヲ犯罪地ノ檢事ニ通知シ併セテ其囑託アル可キ哉否ヲ
照會シ其囑託ヲ待テ起訴可及手續ニ可有之果シテ然ラハ被告
人所在地ノ司法警察官ニ於テ其舉動犯人ト思料ス可キ者アル
等現行犯ニ準シ處分シ得ヘキ被告人ヲ逮捕シ拘留狀ヲ發シ一
應ノ搜查ヲ爲シタル後檢事ニ送致シタル時ノ如キ其拘留狀執
行ヨリ概子己ニ六七日ヲ経過スルヲ以テ囑託ノ儀ニ関シ檢事
ヨリ前記ノ照會中拘留狀十日ノ期限ヲ過クル者往々之ヲア
リ然ルニ檢事ハ之ヲ收監換へ若シクハ被告人ヲ責付スルノ職

権ナキニ因リ重罪犯又ハ逃走等ノ恐レアリテ解放シ得ヘカラサ
ル者ニ付テハ如何トモ處分ノ施シ様モ無之去リ込拘留日數經過
ノ一點ニ拘束セラレ前書ノ照會ヲモ用弁スシテ直チニ其被告人
ヲ犯罪地ノ檢察官ニ送致スルカ如キハ囑託法ヲ設ケラレタル御
旨趣ニ相戾リ可申又夕前書ノ照會一々電報ヲ借ルニ至テハ其
事案ノ顛末ヲ盡ス能ハサル而已ナラス此等ノ事件ハ實際頻々
遭遇スル所ニシテ其經費モ亦少額ナラサル儀ト存候就テハ右
等ノ場合ニ於テハ如何處分致シ可然哉此段相伺候條至急何分
ノ御指揮ヲ仰キ候也

東京輕罪裁判所

檢事 犬塚盛嶽

司法卿大木喬任殿

乙号

東京輕罪裁判所

檢事 犬塚盛麿

被告人逮捕ノ地ノ檢察官犯罪ノ地ノ檢察官照會中拘留ノ儀ニ付
伺ノ趣ハ豫テ管轄裁判所ヨリ囑託ヲ爲シタルモノト看做シ一面
ハ其裁判所ニ豫審若クハ公判ヲ求メ一面ハ其犯罪ノ地ノ檢察官
ニ其旨ヲ通知スヘシ此旨及内訓候也

明治十五年二月十六日 司法卿大木喬任

○同丙第八号達 三月六日

處刑宣告ノ後犯人ヲ司獄官へ護送セシムル際ニ於テハ監獄則ニ
從ヒ檢察官ヨリ右宣告書ノ謄本ヲ司獄官へ送達ス儀ト心得ヘシ
此旨相達候事

○同丙第九号達 同 六日

帶勲者罪ヲ犯シ公推ヲ剝奪又ハ停止スルノ言渡シアリタル時ハ
其罪狀並ニ刑名宣告文ノ寫ヲ以テ當省へ可届出此旨相達候事
但剝奪公推ノ者ハ勲記勲章并ニ年金表トモ収奪ノ上當省へ可

差出事

○同丁第十四号達 二月二十三日

治罪法第百三十五條ニ從ヒ豫審判事ヨリ各控訴裁判所檢事長ニ
被告人ノ人相書ヲ送致シ若クハ其檢事長ヨリ管轄地内ノ檢事ニ
捜査及ヒ逮捕ノ處分ヲ命スル時ハ本年本省丙第六号達第一号書
式ニ照依シテ人相書ヲ作り其命ヲ受ケタル檢事ハ第二号書式ニ
照依シテ逮捕狀ヲ作ルヘシ此旨相達候事

○同丁第十五号達 三月一日

人民ヨリ郡區戸長ニ對スル詞訟取扱方ノ儀ニ付昨明治十四年丁第
九号達モ有之候処受否又ハ判決案伺出ノ際往々不都合ノ向モ有之
候條右伺出ノ節ハ原被告ヨリ差出シタル訴答書ハ勿論一切ノ書類
正本一通及ヒ謄写ノ副本一通合セテ二通并ニ判決案モ正副二通相
添可差出儀ト可相心得此旨相達候事

○同 第八十二号

大審院各裁判所ニ於テ明治十四年十二月三十一日以前審理ニ着手セシ刑事ハ十五年一月一日以後ト雖モ治罪法ニ拘ハラズ仍ホ從前ノ規則ニ從ヒ處分ス可シ
右奉 勅旨布告候事

○同 第八十三号

治安裁判所及ヒ始審裁判ノ權限左ノ通制定ス

第一條 治安裁判所ハ訴訟事件ヲ勸解ス但諸官廳ニ對スル事件及ヒ商事ニ係リ急速ヲ要スル事件ハ勸解スルノ限ニ在ラス

第二條 治安裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓未滿ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス

第三條 治安裁判所ハ人事其他金額ニ見積ル可カラサルモノヲ裁判スルヲ得ス

第四條 始審裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓以上並ニ第三條ニ掲ケタル治安裁判所權外ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス

第五條 始審裁判所ハ其管轄地内ノ治安裁判所ノ始審裁判所ニ對スル控訴ニ付終審ノ裁判ヲ爲ス

但控訴ノ手續ハ明治十年第拾九號布告控訴手續ニ照準ス

○内務省乙第十九号達 三月廿二日

刑法附則申監視票旅券其別紙書式之通相定候條各應ニ於テ調製シ下附スベシ此旨相達候事

但紙質堅緻ナルモノヲ用ユヘシ

○同乙第二十号 同

民事裁判所ヨリ人民呼出狀脚夫ノ賃錢及赤貧者被出トナリ候問旅費ノ儀從前郡區役所又ハ戶長役場ニ於テ繰替又ハ官費支給候向モ有之候處自今一切不相成候條此旨相達候事

○司法省丙第十号 三月廿二日

治罪法第二百八十五條ニ從ヒ調書ヲ作りタル司法警察官ヲ證人

トスル片ハ書記局ヨリ報知書ヲ以テ出廷セシメ宣誓セシムルニ
及ハス書記ノ次席ニ着テ陳述セシム可シ此旨相達候事

○同丙第十一号 同

今般太政官ヨリ別紙ノ通御達相成候條此旨相達候事

明治十五年三月二十七日

司法卿大木喬任
司法省

勅任官禁錮ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ及ヒ奏任官華族帶勳有位ノ
者禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタル時ハ當該檢察官ヨリ
司法卿ニ具狀シ司法卿其事由ヲ奏聞シテ處分スヘシ但現行犯罪
ニ係ル者ハ處分シテ後ニ奏聞スルヲ得此旨相達候事

○同丙第十二号 同 二十七日

明治十四年(十二月)當省甲第七號布達裁判言渡ノ謄本又ハ其板
書ヲ下付スル費用ハ當分違警罪ニ限り徴収セサル様取計ヘシ
此旨相達候事

○同丙第十三号 同 二十九日

軍人軍屬役限内老疾収贖及存留養親ノ儀別紙ノ通り陸軍省ヨ
リ太政官ヘ相伺朱書ノ通御裁令相成候條常人ニ付テモ右ニ照
準處分スヘキ義ト心得ヘシ此旨相達候事

明治十五年四月十四日

司法卿大木喬任

軍人軍屬役限内老疾収贖及存留養親等ノ儀ニ付伺

陸軍々人軍屬ノ犯罪舊軍律ニ依リ流刑徒刑等ニ處スル者其刑
期中ハ總テ普通懲役人同様ノ取扱ニテ即チ役限内老疾収贖及
存留養親等願出候者ハ常律ニ照シ差許來候處新刑法ニ於テ
ハ右等廢止セラレ候得共客年十二月以前既ニ願出調査中ニ係
ル者ハ勿論其未タ願出サル者及新律實施ノ後陸軍刑法第二條新
舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從ヒ 法ニ處シタル者ハ自今以後ト雖モ
總テ舊律ニ照シ處分致候方至當ト相考候間何分ノ御指揮有之
度此段相伺候也

明治十五年二月十日

陸軍卿大山巖

太政大臣三條實美殿

〔裁令〕何之通

○同第十四号 四月十七日

既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル令狀ノ儀ニ付テハ昨明治十四年丙第二十號ヲ以テ相違置候處始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外ハ現ニ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ警部ニ於テ令狀ヲ發スル儀ト可心得此旨更ニ相違候事

○同丙第十五号 同

各府縣限リ布令スル條則届出方ノ儀明治六年第六十二號同八年第廿號ヲ以テ相違置候處自今其府縣ヨリ管内始審裁判所治安裁判所及ヒ其地ヲ管轄スル控訴裁判所ニ通牒シ且ツ其年一月ヨリ三月迄ノ分四月廿日限取纏メ以下之ニ準ヒ一ケ年四度ニ取纏メ當省へ可届出候條此旨更ニ相違候事

○同丙第十六号 同

従前襄章ノ義ハ襄章條例第四條ニ依リ行政官ニ於テ没收致來候處右ハ本年三月當省丙第九號達ニ照準シ處分スヘシ此旨相違候事

○同丁第十七号 三月二十日

軍人軍屬ノ犯罪未決中逃走シタルニ付陸海軍衛ヨリ捕縛方依頼有之候節ハ本年本省丁第十四号達ニ依リ捕縛方取計ヲヘシ此旨相違候事

○同丁第十八号 同

軍人軍屬ノ犯罪既決後逃走シタルニ付陸海軍衛ヨリ捕縛方依頼有之節ハ本年本省丙第六號達ニ依リ捕縛方取計ヲ可シ此旨相違候事

○同丁第十九号 同二十九日

明治十一年當省丁第二十七號達新聞條例及讒謗律犯者表雜形別紙之通改正候條右ニ照準年兩度ニ取調前季(自一月至六月)分ハ七

月十五日限り後季(自七月至十二月)分ハ翌年一月十五日限り可
差出尤犯者無之向ハ其段可届出此旨相達候事

但シ管轄治安裁判所ノ分ハ本廳へ取纏メ可差出事

○同丁第二十号 同

裁判傍聴ノ儀ハ官民ヲ擇ハス渾テ傍聴席へ相廻シ可中此旨相
達候事

但シ外國人ニシテ公然ノ照會ヲ經タル者ハ此限ニ在ラス

○同丁第二十一号 四月五日

民事裁判上人民召換狀脚夫賃錢及赤貧者喚問途中旅費支出方
ノ義ニ付明治十年本省丁第八十六号達ニ及置候處嚮ニ内務省
ヨリ協議有之今般同省ニ於テ乙第二十号ノ通府縣へ達シ相成
候條此旨爲心得相達候事

○同丁第二十四号 四月十二日

左ノ通り豫審判事ニ及内訓候條爲心得此旨相達候事

治罪法第三百三十四條ノ場合ニ於テ豫審判事ヨリ巡查ヲシテ令
狀ヲ他管ニ帶行セシムルハ上告事件殊ニ急速ヲ要スル時ニ限
リ輒ク其處分ヲ爲ス可キ者ニアラス又第三百三十五條ノ場合ニ
於テ豫審判事ヨリ人相書ヲ發シ捜査及ヒ逮捕ヲ爲ス可キ事
ヲ請求スル者ハ專ラ重大ノ罪ヲ犯シタル被告人ニ對シテ發
スル者ニ有之被告人所在ノ地ヲ覺知スルコト能ハサル時ハ罪
ノ輕重ヲ問ハス悉ク人相書ヲ發スル者ニアラサルナリ此等ハ
兼テ注意アル可キ事ナレト尚ホ誤解無之様爲念此段及内訓候事
○同丁第二十五号 同十四日

人民ヨリ郡區戸長ニ對スル詞訟取扱方ノ義昨十四年丁第九號ヲ
以テ相達候中明治十二年丁第十九号ノ上等裁判所へノ達(前客)
右申渡ヲ爲セシ時ハ其都度其趣(何某ヨリ何某ニ係ル何々ノ件
ハ何年何月何日太政官ノ裁令ヲ經テ裁決セシ旨ヲ記ス)大審院へ
通報ニ及置クヘキ旨有之右ハ自今此達ニ照準シ管轄控訴裁判所

一モ其都度無遺漏可及通報此旨相達候事

○同丁第二十六号 同

別紙ノ通り始審裁判所及ヒ始審裁判所ノ權限ヲ有スル治安裁判所ニ相達候條本人控訴ノ節ハ右ニテ受理不受理ノ義識別可致此旨爲心得相達候事(別紙ハ丁第二十五号ト同文略ス)

○同丁第二十七号 同十七日

各府縣限リ布令スル條則届方ノ儀明治八年第三十号ヲ以テ相達置候處今般丙第十五号ノ通府縣ニ相達候ニ付自今當省へ届出ニ不及又始審裁判所ヨリハ本管控訴裁判所へモ届出ニ不及候條此旨更ニ相達候事

○同 號 外 同十八日

被告事件禁錮以上ノ刑ニ該リ輕罪裁判所又ハ重罪裁判所ニ移ス可キ場合ニ於テ留置ヲ要スル者ト思料スル時ハ豫審終結前収監狀ヲ發スル儀ト心得可シ此旨及内訓候也

○太政官第貳拾壹號御布告(輪廓附) 明治十五年四月二十六日

明治十年(二月)第十九號布告控訴上告手續第五條中三ヶ月トアルハ總テ二ヶ月ト改正ス

○同第貳拾貳號 同五月十日

課税ニ關スル處分ニ就キ不服アリテ出訴セントスル者ハ告ツ其旨ヲ申立課額ヲ上納シ領收證書ヲ添へ其翌日ヨリ六十日內ニ訴出ツハシ

但納税期限前ニ訴訟中ト雖モ其期限ニ至レハ課額ヲ上納スハシ

○内務省乙第貳拾九號御布達 明治十五年五月八日

本年一月ヨリ新法實施相成候ニ付テハ明治九年當省乙第貳拾六號達書ハ消滅シタル義ト心得此旨爲念相達候事

○同乙第三拾一號 同五月十五日

本年當省乙第拾九號達刑法附則第二拾五條ニ依リ附與スル旅券第

四項ノ但書ハ特別監視ニ附セラレタル者ニ限り挿入シ尋常監視ニ附セラレタル者ニ挿入セス及ヒ監視票拜ニ放券ニ警察署トアルハ警察分署ヲモ包含セル義ト心得ヘシ此旨更ニ相達候事

○司法省丙第十七號御達 明治十五年四月廿五日

大審院拜ニ裁判所へ別紙ノ通及内訓候ニ付爲心得此旨相達候事
從來法律上ノ疑義何并請訓等數十條ヲ一通ニシテ差出シ又ハ箇條ヲ設ケスシテ數十項ノ條件ヲ列記スル者モ有之取調方不都合抄ナカラス候ニ付今後ハ總テ箇條ヲ設ケ十ヶ條以上ニ涉ル片ハ各通ニシテ差出ス可シ此旨及内訓候事

○同丙第十八號 同五月二日

治罪法第二百六十條ノ場合ニ於テ被告人ヲ重罪裁判所開廳ノ地ノ監倉ニ移ス時ハ檢事ハ前令狀ニ檢事長ノ令書ノ寫ヲ添ヘテ重罪裁判所檢察官ニ送致シ其檢察官ハ是等ノ書類ヲ其地ノ監倉長ニ示シテ被告人ヲ収監セシムルノ處分ヲ爲ス可シ其他法律

ニ從ヒ被告人ヲ他ノ監倉ニ移ス場合ニ於テモ此例ニ準スル義ト心得可シ此旨相達候事

○同丙第十九號 五月五日

内訓條例別紙ノ通大審院諸裁判所へ相達置候處其(廳府縣)ニ於テモ法律上ノ疑義ニ付テハ該達ニ照依シ内訓ヲ請フ丁ヲ得ヘシ此旨相達候事

別紙 明治十二年二月廿四日

内訓條例

第一條 凡内訓條例ハ司法卿ト各裁判所裁判官檢事トノ間ニ於テ用ユル所ノ内規ニシテ專ラ情實疎通事理伸暢ノ爲ニ設クルモノナリ故ニ此條例ニ從フモノハ尋常伺指令ノ効力アラサルモノトス

但伺指令ハ各其職務ノ權限ニヨリ發令スルモノナリ該條例ハ職權ニ不拘唯其注意ヲ要スル爲ニ發スルモノナルニヨリ必シモ

準據セサルヘカラサルノ効力アラストス

第二條 凡民刑上疑問疑獄且裁判百般ノ事情其注意ヲ要スルモノハ總テ此條例ニ從フヘシ

第三條 凡此條例ニ從テ裁判官ヨリ司法卿ニ請フモノハ末文内訓ヲ請フト書シ尋常伺文ニ殊別スヘシ

第四條 凡此條例ニ從テ司法卿ヨリ各裁判所ヘ致スモノハ末文内訓ニ及ト書シ尋常ノ指令ニ殊別ス

第五條 凡裁判所ニ於テ尋常ノ伺トシテ出スモノト雖モ司法卿於テ内訓トナスヘク見込ムトキハ末文内訓ニ及トナシ又内訓ヲ請フトシテ出スモ指令トナスヘシト見込ムトキハ末文指令ニ及トナシ還付ス必シモ原文ヲ改作セシムルヲ要セス簡便ニ從フヲ以テ旨トスレハナリ

第六條 内訓ハ指令ノ効力ナシト雖モ其從フヘカラサルモノハ其事理ヲ詳悉ニ再ヒ之ヲ請ヒ反覆數回妨ケナキヲ以テ其定ムル

所ヲ待ツヘシ亦事理申暢ノ意ナリ

○同丙第三十號 明治十五年五月十一日

犯罪ノ用ニ供シタル物件及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ本案ノ裁判ヲ言渡入迄ニ所有主ヲ發見セサル時ハ刑法第四十三條第四十四條ニ從ヒ其本案ノ裁判ト共ニ沒收ノ言渡ヲ爲スヘシト雖モ右ノ物件ハ之ヲ其裁判所々在ノ地及ヒ犯罪ノ地ニ公告シ一年間(公告シタル日ヨリ起算ス)ニ所有主ヲ發見シタル時ハ檢察官ヨリ直ニ之ヲ還付スヘシ此旨爲心得相違候事

但檢察官ニ於テ保存ス可カラサル物件又ハ保存スルニ付費用ヲ要スヘキ者ト思料スル時ハ公賣ノ處分ヲ爲シタル上其代金ヲ保存シ置クヘシ

○同丁第二十九號 四月二十五日

明治十四年丁第十四號 連審理表雜形丁第十五號 連勸解表雜形相廢候條本年ヨリ差出スニ及ハス此旨相違候事

傍訓 註釋 監獄則 目錄

第一編 第一章 汎則 第二章 監署ノ規程 第三章 監獄ノ構造

第二編 第一章 役法 附時限 第二章 工錢

第三章 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒押送

第四章 假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舎

第三編 第一章 給與 第二章 疾病 附死亡 第三章 書信

第四章 接見 第五章 差入品

第四編 第一章 教誨 第二章 賞譽 第三章 懲罰

傍訓 註釋 監獄則

第一編

第一章 汎則

第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種(ムウシ)ト爲ス

一 留置場 裁判所及ヒ警察署ニ屬スルモノニシテ未決者(イヨダクモノ)ヲ一時(チヨトシタラシ)留置スルノ所トス但時宜(ツギ)ニ由リ拘留ノ刑ニ

處セラレタル者ヲ拘留スルヨトヲ得

二 監倉 未決者ヲ拘禁(コウキン)スルノ所トス

三 懲治場 懲治人ヲ懲治スルノ所トス

四 拘留場 拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルノ所トス

五 懲役場 懲役ノ刑及ヒ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル

ノ所トス

六 集治監 徒刑(島ハラシハタラ)流刑(島ハラシハタラ)及ヒ禁獄(島ハラシハタラ)ノ刑ニ處セ

ラレタル者ヲ集治スルノ所トス

北海道ニ在ル本監ハ徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治ス

第二條 監獄ハ内務卿ノ管轄(シ)ニ屬ス但陸海軍ノ管轄ニ屬スルモ

ノハ此限ニ在ラス

第三條 集治監ハ内務卿之ヲ直轄ス留置場監倉懲治場拘留場懲役場

ハ警視總監(長官ナリ)又ハ府知事(府知事)又ハ府知事(府知事)ノ管轄ス

第四條 此獄則ハ特ニ陸海軍ノ獄則ヲ以テ處スヘキモノニ適用(キ)ス

スルコトヲ得ス

第五條 内務卿ハ毎年其所屬ノ官吏(官制)ヲシテ各監獄ヲ巡閱(巡閱)

セシムベシ

警視總監府知事縣令ハ毎年三四次所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ

裁判官檢察官ハ時々其裁判所ニ屬スル監倉ヲ巡閱スベシ

府縣會議員ハ臨時其府縣監獄ヲ巡閱スルコトヲ得

第六條 在監人ト稱スルハ未決(未決)已決(已決)ノ者及ヒ第十九條第三

十條ニ記載(カ)タル者ヲ云フ

第七條 在監人ヨリ司獄官吏(司獄)ノ處置(カ)ニ對シ若シ情苦ヲ訴

ヘントスルトキハ第五條第一項第二項ニ記載シタル官吏巡閱ノ際

封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得

第二章 監署ノ規程

第八條 司獄官吏在監人ヲ管束(外)スルハ一ニ和平ヲ秉リ罰例ニ照

シテ犯則者(キソクヲオ)ヲ決責(ケツセツ)スルノ外恣ニ責罰スルヲ得ス

第九條 典獄(テウコク)看守長(カウシキチウ)ハ日夜不時ニ監房(カンバウ)ノ内外ヲ視察シ或ハ物件(モノ)ヲ査閱(サケン)シ其他囚徒(シヤク)ノ倣愾(カウダ)ヲ生シ脱越(ダツツ)等ノ事ナカラシムルヲ要ス

第十條 新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ拘引狀(コウインシヤク)拘留狀(コウリウシヤク)收監狀(シュカンシヤク)又ハ處刑宣告書(コウケイセンコウショ)等ノ文書(モンショ)ヲ査閱シテ之ヲ領シ其領收(リョウシュ)ノ證ヲ引致シ來タル者ニ交付ス其文書ナクシテ引致セラレタル者ヲ入監スルヲ得ス

未決者ノ中共犯人(トモニオカス人)アルトキハ其監房(カンバウ)ヲ別異シ談話通聲(ダンワツウシヤク)ヲ禁シ法庭(シラス)ニ引致ノ時モ同往セシムルヲ得ス
已決者ハ第十六條ニ記載シタル差別ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

第十一條 入監ノ婦女乳兒三歳ヲ携帶セント請フ者アルトキハ之ヲ許ス

第十二條 新ニ入監スル者アルトキハ名籍ノ様本(ヨトヲカキルモノ)ニ照シ其要項(ヨウコウ)ヲ詳録シ一小房内ニ於テ通身(チウシン)ヲ搜檢シ利器(リキ)其他ノ物件ヲ夾帶(カウタイ)スルヲ拒クヘシ懲治人ノ監舎ニ入ルトキモ亦同シ

第十三條 總テ監房ニ入ル、物品ハ典獄一々之ヲ精驗(シンケン)シ其危險ノ虞(オソ)アルモノバ一切之ヲ禁スベシ

第十四條 總テ入監人ノ携有スル財貨物件(サイカセ)ハ悉ク點檢(テンケン)シテ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄一々證印シテ之ヲ領置(リョウチ)シ釋放ノ時還付スベシ但點檢ノ際隱匿(カク)セシ貨物ハ沒收(ボツシュ)ス

若シ其領置ノ貨物ヲ以テ親屬ヲ扶助シ其他正當(アツク)ノ費用ニ充ン、ト請フトキハ之ヲ許ス

第十五條 在監人書籍ヲ看ント請フトキハ新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ記載スルモノヲ除キ修身又ハ營業(ナリ)ニ必要ナルモノ、ミヲ許スヘシ

第十六條 已決囚ハ各刑名ニ從テ其監房ヲ別異シ又其中ニ就テ左ニ記載シタル者ヲ別異ス

- 一 十六歳未満ノ者ト滿十六歳以上ノ者
- 二 滿十六歳以上二十歳未満ニシテ再犯以上ノ者ト同上ノ年齢ニシテ初犯ノ者
- 三 初犯ノ者ト再犯以上ノ者

第十七條 要犯疑獄(カシシノモノトモトモ)ニ係ル者ヲ拘禁スル未決監ニ於テハ

其氏名ヲ呼バス番號ヲ以テ之ニ換フヘシ但著衣ノ外襟(ハカマ)ニ白布ヲ縫著シ其番號ヲ黑書シ監房ヲ出入スル毎ニ皂布(モウシ)ヲ以テ覆面シ當眼ノ所ニ小孔(チイサキ)ヲ穿テ共犯者ヲシテ共ニ拘禁ノ身タルヲ窺探(ウツヒ)スルヲ得サラシム

第十八條 放恣不良(ホシヒマ)ノ者ヲ懲治場ニ入レ矯正歸善(カウゼン)セシメント其尊屬親ヨリ願出ルトキハ第二十條第一項ノ例ニ照シテ處分スベシ

矯正歸善ノ爲メ懲治場ニ入ルベキ者ノ年齢ハ滿八歳以上滿二十歳以下ヲ限トス

第十九條 懲治人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ

一 刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ從ヒ懲治場ニ留置スル
幼年ノ者及ヒ瘡癩者(オシ)

二 尊屬親(シツハク)ノ情願ニ由テ懲治場ニ入タル者

第二十條 前條第二款ニ記載シタル懲治人ハ戶長ノ證票(シヤウケン)ヲ具ス
ルニ非レハ入場ヲ許サス但在場ノ時間ハ六個月ヲ一期トシ二年ニ
過ルヲ得ス

入場ヲ請ヒシ尊屬親ヨリ懲治人ノ行狀ヲ試ル爲メ宅舎ニ帶往セン
ト請フトキハ其情狀ニ由リ之ヲ許スベシ

第二十一條 懲治人ハ左ノ年齡ニ從ヒ其居房ヲ別異ス

- 一 十六歳未満ノ者ト滿十六歳以上ノ者
- 二 滿十六歳以上二十歳未満ニシテ再ビ懲治場ニ入シ者ト同上ノ

年齢ニシテ初テ入場スル者

第二十二條 在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名籍又ハ處刑ノ宣告書其
他必用ノ文書及ヒ領置ノ貨物ヲ具シテ送致スベシ其發遣ノ途中ニ
在テノ行狀ハ押送官吏(コウケンシヨウシ)之ヲ記述シテ典獄ニ知會(コトガシラス)
ヘシ

在監人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ戒具(シツラライ)ヲ用ヒ男ト
女ヲ別ツヘシ但懲治人ハ戒具ヲ用ヒス

第二十三條 典獄ハ看守長及ヒ看守ヲシテ常ニ在監人ノ行狀(シツラライ)ヲ
録サシメ賞罰ヲ行フノ考據(コリ)トナスベシ

第二十四條 賞表(シツシ)ヲ與ヘタルトキハ賞譽簿ニ其氏名及ヒ賞詞ヲ
記載シ褫奪シタルトキハ之ヲ删除スベシ但其賞罰ヲ行ヒタル旨ヲ

囚徒ニ示スハ第二十六條ノ例ニ依ルヘシ

第二十五條 特赦天皇ヨリカクセツノオホシメシテアリタルトキハ速ニ其旨ヲ内務卿ニ申報スヘシ

第二十六條 特赦ヲ受タル者アルトキハ免役日若クハ日曜日ノ午後ニ在テ他ノ囚徒ヲ集メ其旨ヲ聽カシメ仍ホ之ヲ揭示スヘシ

第二十七條 假出獄カクシテノカクシタルヲ許サレタル者ニハ其證票ヲ與ヘ警察廳傳ケイサツテイデンヲ以テ其居住セントスル地ニ押送スヘシ

監署ニ領置セシ金錢ハ出獄者ニ携帶セシメス其金員ヲ録シテ共ニ其地ノ警察官ケイサツクワン項ニ記載シタル官吏ニ送致スヘシ

第二十八條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其刑期間ハ典獄ニ於テ營業ノ方法ヲ指示シ其來署ヲ要スルトキハ召喚セウケンスルコ

トヲ得

第二十九條 在監人中能ク獄則ヲ守ル者ヲ撰テ傳告者誘工者トナス

傳告者ハ官吏ノ命令ヲ在監人ニ傳ヘシメ誘工者ハ工場ニ在テ服役者ヲ勸誘カウソウセシム但傳告者誘工者ハ滿六個月以上其用務ヲ繼續セシムルヲ得ス

傳告者及ヒ誘工者ハ私ニ在監人ヲ使役シ若クハ凌辱レイジュクスルノ所爲アルヲ許サズ

第三十條 刑期滿限ノ後頼ルヘキ所ナキ者ハ其情狀ニ由リ監獄中ノ別居ニ留メ生業ヲ營マシムルヲ得

第三十一條 刑期滿限ノ者ヲ解放カイハツスルハ滿期ノ翌日午前第十時ヲ過ヘカラス

第三十二條 死刑ノ執行ハ午前第十時ヲ過ルヲ得ス其執行中ハ看守

ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシムシシ

其遺骸(シカ)ハ死相(シカ)ヲ驗シタル後仍ホ二分時ヲ過サレハ埋葬若

クハ下付スルコトヲ得ス

第三十三條 刑死者又ハ死亡者アルトキハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨ

リ本籍ノ戸長及ヒ近地ノ親屬若クハ故舊(シカ)ニ通知スヘシ其監

署ニ領置シタル貨物ハ親屬ニ下付ス若シ親屬ナキトキハ遺骸ヲ領

取シタル故舊ニ之ヲ下付ス但死者ノ身ニ纏ヒタル衣服ハ此限ニ在

ラス

親屬遠地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スルモノハ其物品ヲ販

賣シテ代價ヲ遞付(シカ)スルコトヲ得但送費ハ親屬ノ自辨(シカ)

トス

若シ其物件又ハ代價ヲ受クヘキ者ナキトキハ之ヲ沒收(シカ)ス

第三十四條 在監人逃走スル者アル時領置ノ貨物ハ前條ノ例ニ依テ

處分スヘシ但沒收ハ逃走ノ日ヨリ滿一個年ヲ經ルノ後ニ非レハ之

ヲ處分スルコトヲ得ス

領置ノ工錢ハ第五十七條ニ照シテ處分スヘシ

第三十五條 監獄ノ近境(シカ)ヨリ發火シテ罹災(シカ)ノ虞アルトキ

ハ司獄官吏其形勢(シカ)ヲ量リ在監人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避シム

ヘシ

水火風震其他激甚(シカ)ナル變災ニ際シ在監人ヲ押送スルノ違ナキ

トキハ要犯疑獄ニ係ル者ヲ除クノ外一時解放(シカ)スルヲ得

第三章 監獄ノ構造(シカク)

第三十六條 留置場、監倉、懲治場、拘留場、懲役場、ハ每府縣ニ置キ集治監ハ適宜ノ地ニ之ヲ置クモノトス

留置場、監倉、懲治場、拘留場、懲役場、一區畫内ニ在ルモノハ牆壁(トキ)ヲ以テ之ヲ區畫スヘシ

第三十七條 未決監、已決監及ヒ懲治場ハ男監、女監ノ別ヲ嚴劃(ワケビシク)スヘシ

甲ノ監房ニ在ル者ト乙ノ監房ニ在ル者ト彼是交談シ又ハ物件ヲ交通スルノ便ヲ得ザラシムヘシ各監房ノ鑰匙(カギ)ハ其製式ヲ同クシ甲乙遮用(アチラコチラフト)スルヲ要ス

第三十八條 密室ハ監倉ニ設ケ他人ト交通スルコトヲ得サラシムヘシ

シ
聞室ハ已決監ニ設ケ暗ニ空氣ヲ通セシメ毫モ光線(ヒカリ)ヲ通セシメサルヲ要ス

密室聞室ハ一室一入ヲ限トス

第三十九條 接見室(シロイヌトモゴチトシ)ハ監倉ノ首部ニ設ケ其壁面ニ方三尺

ノ口ヲ開キ之ニ縱横(ヨコ)ノ格子ヲ嵌メ格子ヨリ三尺許ヲ距リ柵欄ヲ設ケ在監人ハ格子内ニ立シメ外人ハ格子外ノ柵欄ニ倚ラシムベシ懲治人ノ接見室ハ此例ヲ用ヒス

第四十條 燈火ハ監房外ニ置キ障得スルノ虞ナカラシムベシ

第四十一條 死刑場ハ監獄ノ一隅(カドミ)ニ設ケ牆壁ヲ以テ外見ヲ防グベシ

第二編

第一章 役法 附時限

第四十二條 定役ニ服スル者ノ作業ハ刑名ニ因テ之ヲ斟酌(キリ)シ毎
 囚一日ノ科程(キリ)ヲ定メテ服役セシム滿十二歳以上十六歳未滿ノ
 者滿六十歳以上ノ者及ヒ病後ノ疲勞(ツカ)若クハ身体ノ虛弱ニ因リ
 勞作(シヨトリ)ニ勝ヘサル者ハ体力ニ應シ作業ノ科程ヲ寛恕(ユルシ)ス
 若シ已ムヲ得ス外役ニ服セシムルトキハ鐵鎖(テリ)ヲ用テ囚毎ニ
 聯絆(ツル)シ笠ヲ用テ晴雨ヲソシ其面ヲ掩ハシム但外役ノ囚徒ハ一組十人
 以上十五人以下ト定メ看守一人押丁二人以上ヲシテ之ヲ監セシム
 外役ノ囚徒道路往來スル時ハ務メテ他人通行ノ妨ト爲ラサラシム
 ルヲ要ス

第四十三條 毎日囚徒ヲシテ役ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監房外
 ニ整列セシメ看守長及ヒ看守點檢ヲナスベシ歸監セシムル時モ亦
 同シ

第四十四條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス父母ノ喪ニ遭フ者モ亦
 一日免役ス

一月一日

一月二日

元始祭
 紀元節
 神武天皇祭
 神嘗祭
 新嘗祭

孝明天皇祭
 春季皇靈祭
 秋季皇靈祭
 天長節

十二月三十一日

第四十五條 囚徒ノ專習スヘキ工業ハ授業者若クハ工業殊等ノ囚ラ
シテ之ヲ導カシム其刑期一年以下ノ者ニハ習熟シ易キ工業ヲ授ル
ヲ要ス

第四十六條 定役ニ服セサル囚徒ト雖凡典獄之ヲ勸誘(シテ)シテ其將
來ノ生業ヲ計リ攝生(ヲ)又ハ親屬扶助ノ爲メ勞作セント請フニ至
ラシムルヲ要ス其工業ノ種別ヲ定ムルハ典獄ノ指示(ヲ)ニ依ル
未決監ニ在ル者坐作(ノ)業ヲ爲サント請フトキモ亦同シ

第四十七條 懲治人ニハ教誨ニ充ル爲メ服役時間表ニ準シ七時ニ過
サル時間(ヲ)除キ農業若クハ工藝ヲ教ヘ力作セシムヘシ

〇時間

第四十八條 未決者及ヒ定役ニ服セサル已決者ハ毎朝日出ノ頃ニ起

床(トキコ)シ各其監房ヲ掃除シ畢リ喫飯セシム又毎日一時間以内監
房外ニ於テ運動ヲ許ス

第四十九條 定役ニ服スル者ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃
除シ畢テ喫飯(シテ)セシム其起床ヨリ約子一時間ヲ經テ役ニ就カシ
メ午前十時前後ニ至テ湯若クハ水ヲ興ヘ正午十二時ニ至リ休役ス
飯後暫時休憩シ再ヒ就役日没前罷役(シテ)セシム其時間ハ別表ニ之
ヲ定ム但時宜ニ由リ其時間ヲ伸縮(シテ)スルヲ得

起床還房及ヒ就役罷役其他ノ動止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ(以テ)以
テシ全監一齊(ニ)動止セシム

第五十條 料程ヲ終リタル者ハ時限ニ拘ハラヌ罷役セシム
午飯ニ就カシムルノ際料程ノ大半ヲ爲シ得タルヤ否ヲ驗視(シテ)ス

ヘシ若シ偷懶ニシテ怠役(タイキヤク)スル者ハ飯後ノ休憩(ヤシ)ヲ許サス

第二章 工錢(コウゼン)

第五十一條 定役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經レハ始テ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分シテ重罪囚ニハ其一分輕罪囚ニハ其二分ヲ與ヘ餘分ハ之ヲ監署ニ收ム

定役ニ服セサル囚徒及ヒ未決者并ニ第十九條第一款ニ記載シタル懲治人ニシテ作業スル者ノ工錢ハ十分シテ其三分ヲ監署ニ收メ其七分ヲ與フ定役ニ服スル囚徒ニシテ當日ノ科程ヲ畢テ仍ホ作業スル者科程外ノ工錢ハ之ニ準ス

第五十二條 尊屬親ノ情願(マコト)ニ由テ懲治場ニ入タル者其尊屬親ヨリ衣食費ヲ自辨スル者ノ工錢ハ其全分ヲ與ヘ衣食費ヲ自辨スル

不能ハザル者及ヒ刑期滿限(ケイキマンゲン)ノ後類ルヘキ所ナクシテ監署傍ノ別房ニ留置シタル者ハ其工錢ノ内ヨリ衣食費ヲ扣除(サキ)シ餘分ハ之ヲ與フ

第五十三條 在監人ニ與フヘキ工錢ハ監署ニ領置シ毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ知ラシムヘシ

第五十四條 各種ノ工錢ハ其地普通ノ備工錢(イサヒ)ヲ準(マ)トシ各自ノ技能(シキリ)ニ應シ一日若干錢ト定ムベシ

第五十五條 監署ニ領置ノ工錢ハ本人ノ請ニ由リ親屬ニ贈與(オウケル)スルヲ許シ又ハ書籍其他必要ノ物品及ヒ第六十九條ニ從ヒ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルヲ得

第五十六條 在監人死亡シ監署ニ領置ノ工錢アルトキハ親屬ニ下付

ス親屬ナキトキハ遺骸ヲ領取シタル故舊ニ下付ス若シ下付ヲ受ヘ
キモノナキトキハ之ヲ没收ス

第五十七條 在監人若シ逃走シタルトキハ已決囚ノ工錢ハ之ヲ没收
ス未決者及ヒ懲治人ノ工錢ハ其親屬ニ下付ス親屬ナケレバ之ヲ没
收ス

第三章 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒押送

第五十八條 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受タル者アルトキハ其宣告書
ノ謄書(謄本)ヲ具シテ内務卿ニ申報シ其指揮ニ從ヒ警察遞傳ヲ以テ
集治監ニ押送スベシ
北海道集治監ニ於テ管束スベキ徒流刑ノ囚徒ハ本監官吏ノ臨時派
出シタル地マテ押送スベキモノトス

第五十九條 北海道ニ在ル集治監ハ毎歲三四次官吏ヲ派出シ前條第
二款ノ例ニ從ヒ押送シタル徒流刑ノ囚徒ヲ受取ヘシ

第六十條 徒刑流刑ノ囚徒ヲ押送スル時ハ戒具(シラカサカサ)ヲ用ヒ男囚ト
女囚トヲ別ツヘシ遞船中(アヒドマヨル)ニ在テハ戒具ヲ用ヒサルモ妨ケ
ナシ

第四章 假出獄免幽閉ノ者ニ貸與(カサシ)スル屋舎

第六十一條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒流刑ノ者其地ニ居住スベキ
家ナキトキハ屋舎ヲ貸與スヘシ
屋舎ヲ構造(チキヒ)スルハ將來市街村落(マチ)ヲ創置(コシ)スルノ便ヲ計
畫スルヲ要ス

第六十二條 假出獄免幽閉ヲ受ケタル徒流刑ノ者其配偶者(メウ)又

ハ其他ノ親屬ヲ招キ同居セント請フトキハ典獄将来營生ノ方法ヲ
取糺シ之ヲ許否スベシ

前項ノ請ヲ許ストキハ其配偶者又ハ其他ノ親屬現住スル地ノ戸長
ニ通告スベシ

其徒刑流刑ノ者嫁娶ヲ爲サントスルトキハ監署ニ申告セシメ典獄
之ヲ許否スベシ

第三編

第一章 給與

第六十三條 已決囚ノ獄衣類ハ總テ之ヲ貸與ス

第六十四條 未決者ノ衣類ハ總テ自辨トシ臥具(被褥)ハ之ヲ貸與ス

若シ臥具ヲ自辨セント請フ者ハ之ヲ許ス貧困ニシテ衣類ヲ自辨ス

ルヲ能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

第六十五條 已決囚ノ獄衣ハ赭色トシ懲治人ノ衣服ハ淺葱色トス

第六十六條 獄衣ハ總テ筒袖トシ長短二種ニ別ツ男ノ通常服ハ長衣

就役服(シフトラブル)ハ短衣トシ女服ハ總テ長衣トス

獄衣ノ外襟ニハ白布ヲ縫着シ之ニ番辨ヲ墨書スベシ

第六十七條 在監人ニ貸與スル衣類雜具

通常服

單衣 一 袴 一 綿入衣 一 襦袢

就役服

一 單短衣 一 袴 一 綿入短衣 一 襦袢

一 股引

雜具

- 一 蒲團
 - 一 杖
 - 一 莞筵
 - 一 枕
 - 一 帶 三尺
 - 一 禪 三尺
 - 一 手巾
 - 一 蓑
 - 一 笠
- 以上ノ貸與品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ 澁澤補綴シ
テ其用ニ充ルヲ得
- 第六十八條 在監人一人一日ノ食糧
- 一 下白米十分ノ四
 - 一 棧割麥十分ノ六
 - 七合
 - 強キ力業ニ服スル者
 - 一 同
 - 五合
 - 輕キ力業ニ服スル者
 - 一 同
 - 四合
 - 工役ニ服セサル者及
十歳未滿ノ幼者
 - 一 同
 - 三合
 - 十歳未滿ノ幼者
 - 一 菜
 - 金壹錢五厘以下

地方ノ便宜ニ依リ粟稗ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルコトヲ得

第六十九條 工業ニ勉勵シテ食費ヲ償フベキ工錢ヲ得ル者及ビ其幾

倍ヲ得ル者等ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之

ヲ給スルコトヲ得但一日金三錢ヲ過ルコトヲ得ス

定役ニ服セサル者ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購

ヒ之ヲ給スルコトヲ得但一日金五錢ヲ過ルコトヲ得ス

第七十條 在監人日用ノ雜費 澁澤補綴 又ハ炊用ノ薪炭 其他一身ニ係ル日常諸費ハ一人一日金

壹錢貳厘以下トス

第七十一條 監房常置ノ器具

一 貯水器并ニ飲器

一 唾壺

木製

同

一 便器

一 小箒

一 手洗盆

木製大小二種但監房二厨圍ノ接續スルモノニハ此器ヲ用ヒス
草ノ種類ヲ以テ製作セシ較カナルモノ
木製

第七十二條 浴湯ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月マテハ五日毎ニ一次十月ヨリ五月マテハ十日毎ニ一次トス

第七十三條 已決囚及ヒ懲治人ノ髪ハ常ニ之ヲ短薙(キル)シ鬚鬚(ヒゲ)ノ者ハ常ニ剃除(ヒゲ)セシム但未決者ハ此限ニ在ラス

婦女ノ梳髮(カミ)ハ膏ヲ用ヒテ裝飾(カズル)スルヲ許サス

第七十四條 衣類雜具其他ノ物品ハ種質ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ澣(ア)ヒ臭氣ヲ去リ蟲害(トドム)ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ晒洗(ア)ススベカラズ

第二章 疾病 附 死亡

第七十五條 在監人疾病(ヤ)ニ罹レバ病狀(ヤ)ノ輕重ヲ量リ其監房若クハ病室ニ於テ醫療セシム

懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交付スルコトヲ得

第七十六條 病者ノ攝養ニ効アル飲食物又ハ温ヲ取ル湯婆等ヲ用ルコトヲ要スルトキハ醫師ヲシテ其旨ヲ證明セシメ典獄之ヲ考檢シテ許否スベシ

第七十七條 傳染病侵襲(ハ)ノ兆アルトキハ其消毒豫防ヲ慎重(シ)ニスベシ

若シ在監人中傳染病者アルトキハ直ニ病性及ヒ感染ノ形狀ヲ詳悉シ醫師ノ診察書ヲ副へ各其所屬長官ニ報告スベシ

○死亡

第七十八條 在監人死亡スレバ典獄看守長醫師并蒞テ之ヲ驗屍スベシ

未決者又ハ已決囚ニシテ別故アリ再ビ訊問ニ係ル者死亡シタルトキハ之ヲ其裁判所ニ申報スベシ

第七十九條 死者ノ親屬若クハ故舊第三十三條ニ記載シタル時限ヨリ二十四時以内ニ在テ遺骸(イ)ノ下付ヲ請フトキハ之ヲ許シ其者ヲシテ簿冊(ニ)ニ署名押印(三)又ハ花押(四)セシムベシ

遺骸ヲ謂フ親屬故舊ナキトキハ棺ニ入テ假葬シ其上ニ氏名標ヲ建ツヘシ其標ハ約ネ面三寸長三尺五寸トス

第三章 書信

第八十條 已決囚其親屬故舊ニ信書(一)ヲ贈ルハ六個月間ニ一次トシ一通ニ過ルコトヲ得ス但其他官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スルトキ又ハ親屬故舊ニ回答セント請ヒ司獄官吏ニ於テ法律ニ觸ルコトナク且必用ト認タルトキハ此限ニ在ラス

第八十一條 未決者ニ係ル信書ハ定限ナシ但豫審判事又ハ檢事ノ檢閱ヲ經ルニ非レバ贈答セシムルヲ得ス

第八十二條 懲治人及ヒ幼年ノ已決囚其親屬故舊ニ贈ル信書ハ一個月一次トシ一通ニ過ルコトヲ得ス

第八十三條 在監人ノ發スル信書ハ典獄之ヲ檢閱スヘシ若シ書中忌諱ニ渉ル等ノ文意アル片ハ通信ヲ許サズ

第八十四條 外人ヨリ在監人ニ贈リ來ル信書ハ典獄之ヲ檢閱シ適正

ノ事項(シコウ)ヲ陳ベ又ハ遷善ノ諭示(ヨクコトニナルヲ)ヲ主トシタルモノニ
限リ之ヲ本人ニ付與ス若シ在監人ノ改悛(カイツン)ヲ妨ルモノト認ルト
キハ之ヲ付與セス

第八十五條 信書ヲ檢閱スルハ先ツ直行ヲ順讀シ次ニ逆讀(ヨウカク)斜讀
(シカク)又ハ橫讀シ嫌疑(ウタガハシ)ノ文意アリヤ否ヲ詳查スベシ

第八十六條 在監人ヨリ發スル信書ハ必ズ書信紙ヲ用ヒシメ典獄之
ヲ緘シ封皮(フウヒ)ニ其受領スヘキ者ノ住所氏名ヲ書シ某監獄署ト記
シ之ヲ遞送ス但郵便稅ハ自辨セシム
親屬故舊若クハ辨護人ノ信書ハ監獄署ニ宛之ヲ差出サシムベシ

第四章 接見

第八十七條 在監人ニ接見(セツケン)セント請フ者アルトキハ典獄先ヅ之

ニ面接シテ其氏名族籍營業等ヲ訊ヒ其緣由ヲ詳悉シ已ムヲ得サル
ノ事狀アリテ形跡ノ疑フベキヲナキトキハ之ヲ許シ看守長看守竝
蒞テ面會セシム但密室ニ在ル者ハ接見ヲ許サス
面會ノ時間ハ三十分時ヲ過クルヲ得ス若シ面會ヲ請ヒシ旨趣ニ違
フ談話(ワタシ)ヲナシタルトキハ直ニ之ヲ停止ス

第八十八條 死刑ノ執行及ヒ徒刑流刑禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒ヲ集治
監ニ押送ノ以前親屬故舊其囚徒ニ面會セント請フトキハ前條第一
項ノ例ニ依テ之ヲ許ス但面會ノ時間ハ五十分ニ過ルヲ得ス

第五章 差入品

第八十九條 未決者及ヒ懲治人ニ其親屬故舊ヨリ書籍用紙衣服臥具
又ハ飲食物(イシヨク)炊具(チキ)ヲ要セサルモノ限リヲ贈ラント請フトキハ之ヲ許ス

但酒又ハ煙草其他攝生(カラムシ)ニ害アルモノハ此限ニ在ラス

第九十條 已決囚ニハ書籍用紙ノ外一切差入品ヲ許サス

第九十一條 假出獄免幽閉ヲ受ケタル徒刑流刑ノ者親屬故舊ヨリ金錢衣服家具等ノ寄贈(モラ)ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

第四編

第一章 教誨

第九十二條 已決囚及ヒ懲治人教誨ノ爲メ教誨師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ講セシム

第九十三條 教誨ハ免役日又ハ日曜日ノ午後ニ於テ其講席ヲ開クモノトス

第九十四條 懲治人ニハ毎日三四時間讀書習字算術度量圖書等ノ科目中ニ就キ之ヲ教フヘキモノトス

學科ハ懲治場ノ教場ニ於テ之ヲ研究(サイエンス)セシメ其學業ノ進歩ヲ表スル爲メ就學ノ年月卒業ノ科目學業ノ優劣(メリ)及ヒ行狀ノ良否氏名年齢等ヲ簿冊ニ記載シ巡閱官吏ノ檢閲ニ供シ又ハ其尊屬親ニ示スコトアルヘシ

第九十五條 各監房内ニ左ノ諸款(トク)ヲ揭示シ傍訓釋義シテ解シ易カラシムヘシ若シ文字ヲ識ラサル者アレバ入監ノ時ヨリ二十四時内ニ於テ之ヲ讀ミ聽カスヘシ

揭示

一 在監人ハ常ニ教令ヲ謹守(モル)スベシ

一 平日互ニ和順ヲ主トシ教誨聽聞ノ席ニ就クトキハ慎テ容止(フスカリ)

ヲ正フスベシ 此款ヲ除ク

一 毎朝父母若クハ其墳墓所在ノ方位ニ向テ禮拜スベシ

一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列(バラ)シテ點檢ヲ受ケ及ヒ

席壁(クシ)廁圍(クシ)等ヲ掃除スベシ

一 窓壁若クハ物件ヲ汚損(クシ)シ不淨器ノ外へ唾キ貯水ヲ濫用(フカガヒ)

スルヲ禁ス

一 監外ニ出タル時其途上ニ於テ全往ノ者ト交談シ及ヒ手ヲ交ヘ或

ハ路人(スルヒ)ニ聲語スルヲ禁ス

一 夜間ハ最モ鎮靜(シヅカニ)ヲ主トシ說話或ハ發聲又ハ濫リニ起歩スル

ヲ禁ス但晝間ト雖モ放歌喧噪(カウカウ)又ハ高聲ニ誦讀スルヲ禁ス

一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ競ヒ若クハ賭博類似

ノ惡戯ヲナシ或ハ同房ノ者ニ汚辱(ハジカ)ヲ被ラシメ猥褻(ヒツク)ニ涉

ル如キ所爲アルヲ禁ス

一 服役中其作業ニ関セサル他事ヲ交談(カウカウ)シ及ヒ休憩(ヤス)ノ時間

部外ノ工場ニ至ルヲ禁ス 此款ヲ除ク

一 許可ヲ得スシテ衣食其他ノ物件ヲ受與貸借スルヲ禁ス

一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ラズ直ニ看守所ニ通聲スヘ

シ

一 日没後ハ發病スルモ其症急劇ナルニ非レハ翌朝ニ至テ醫療ヲ乞

ヘキモノトス若シ劇症ナルトキハ直ニ看守所ニ通聲スベシ

一 獨居ノ者卒カニ病ヲ發シタルトキハ監房ヨリ看守所ニ架スル所

ノ響器繩ヲ引キ以テ之ヲ報スベシ

一病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保ニカヲ致スベキハ勿論其看病

人タラシムル者ハ切實ニ之ヲ看病スヘシ

一水火風震等ノ際解放ニ遭フ者ハ其解放ノ時ヨリ二十四時内ニ監

獄署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ヘシ

右ノ諸款ニ違フ者及ヒ違フ者アルヲ知テ告サル者又ハ官吏ヨリ犯

者ヲ問フニ營リ之ヲ擧ケサル者ハ其情狀ノ量リ處分スヘキモ介リ

年月日

某監獄署

第三章 賞譽

第九十六條 已決囚獄則ヲ謹守シ且改悛ノ行爲著キ者ト典獄ニ於テ

確認スルトキハ之ヲ賞譽スベシ

第九十七條 賞譽セシ者ニハ賞譽セシ毎ニ之ヲ表スル爲メ獄衣ノ左

袖ノ肩臂間ニ方二寸尺ノ淺葱色ノ布ヲ縫着スヘシ

第九十八條 賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ考據ト

爲スヲ得

第九十九條 賞表ヲ得タル者ニハ二個月ニ一次親屬故舊ニ接見及ヒ

通信スルヲ許ス

第一百條 已決囚若シ在監人ノ逃走ヲ密告(ハ)又ハ捕得シ或ハ監獄ニ

係ル水火災ヲ防禦シ人命ヲ救援(ス)シタル者アレハ金二十五錢以

下ヲ賞與シ其賞金ハ監署ニ領署シ本人ノ請ニ由リ必用品又ハ食物

ヲ購求スヘシ

第一百一條 未決監ニ在ル者前條ノ勞動アルトキハ之ヲ録シテ檢

察官及ヒ裁判官ノ參考ニ供スヘシ

第二百二條 懲治人第百條ニ適シタル勞動アルトキハ金二十五錢以下ヲ以テ適宜物品ヲ購ヒ之ヲ與フヘシ

第三章 懲罰

第二百三條 已決囚獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

- 一 絶信 親屬故舊ト書信接見ヲ絶ス
- 二 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ工場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時限表ニ照シテ座作ノ役ヲ科ス
- 三 減食 常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ塩湯二品ノ外菜ヲ與ヘス

四 閤室 閤室(ラフキ)ニ入レ常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ塩湯

二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス

第二百四條 絶信屏禁ハ有限若クハ無限ト爲シ減食閤室ハ七晝夜ヲ限

トス

減食閤室七晝夜ニ滿ルモ改悛ノ狀ナキトキハ一旦之ヲ免シ更ニ之

ヲ科スルコトヲ得

第二百五條 懲治人及ヒ十六歳未滿ノ已決囚獄則ヲ犯ストキハ其輕重

ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

- 一 獨慎 晝夜一室ニ獨居セシム
- 二 減食 常食ノ半以内ヲ減ス但菜ヲ減スルノ限ニ在ラス

第二百六條 獨慎ハ七晝夜以内減食ハ三日以内トス

第七條 未決者及ヒ拘留ノ刑ヲ受ケシ者教令ニ順ハス或ハ同監ノ者ヲ煽惑シシ又ハ其他ノ規則ヲ犯ストキハ所犯ノ輕重ヲ量リ第百三條第百五條ニ準擬シ減食スルコトヲ得

第八條 賞表ヲ有スル者處罰ヲ受タルトキハ賞表一個又ハ數個ヲ褫奪ス

第九條 無期徒刑ノ囚徒逃走シ若クハ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シ其他重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ三月以上五年以下兩脚又ハ一脚ニ鈇ガセヲ施シ仍ホ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ其鈇ニ貫キ腰間ニ繚帶セシメ繚帶ノ所ニ下鍵ス但監房ニ在ルモ晝間ハ之ヲ施スモノトス
若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以下前項ノ例ニ照シ

テ處罰ス

鐵丸ノ量ハ二百目以上一貫目以下トシ被罰者ノ體力ニ應シテ之ヲ施ス九ハ索尾ニ屬シ地上ヲ轉ハスモノトス其外役ニ服スルトキハ鐵丸ヲ除キ二人聯絆ノ法ニ從フ

第十條 減食或ハ閤室ノ罰ニ處スヘキ者アルトハ醫師ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シテ後之ヲ行フヘシ

第十一條 屏禁減食閤室又ハ獨愼ノ罰ニ處シタル後ハ典獄若クハ看守長時々其動靜ヲ窺察シ狀況ニ由リ醫師及ヒ教誨師ヲシテ之ヲ問ハシムルコトアルヘシ

第十二條 罰則ニ處セラレタル者改悛ノ状著ル、トキハ之ヲ免スルコトヲ得

註釋 監獄則

第百十三條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者監署ノ命令ニ違背シタルトキハ七日以下之ヲ拘置スルコトヲ得

傍訓 監獄則終

身 材	事入 場 状ノ	年入 月場 日ノ	親 屬	親及懲 ノヒ治 營業屬人	年氏族出 名籍地管 生	典獄(捺印) 懲治人名籍 主檢 書記氏名印
長何尺何寸何分肥瘠強弱		明治何年月日午後第何時入場	父母兄弟及ヒ配偶者等ノ有無	懲治人ノ營業 主願者タル尊屬親ノ營業	何國郡町 村産 何某 某年何月何日何時	

音容	聲貌	面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ 恣態其他痘斑瘰癧子癰瘰癧瘰癧天鰓割瘰 ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス
教育	門及	入場ノ時文字ヲ知ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス 入場後進學ノ景況 何宗或ハ宗門不詳
入賞	罰中	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ
書信	贈	何年月日何國郡村住親屬若クハ朋友ニ書信
懲治	留置	明治何年月日何月何日某裁判所ニ於テ 若干年月日留置ノ宣告
曩ニ	處断	犯由ノ大畧及ヒ某裁判所
事	變	明治何年月日病死或ハ變死或ハ逃走或ハ他監ニ移入
放	還	明治何年月日某家ニ放還

音容	聲貌	面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ 恣態其他痘斑瘰癧子癰瘰癧瘰癧天鰓割瘰 ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス
身	材	長何尺何寸何分肥瘠強弱
及年	入月	監日
提乳	携兒	明治何年月日午後第何時入監 何罪ヲ犯ス
營業	親屬	營業ヲ詳記入可シ 父母元氣及ヒ配偶者子孫ノ有無
年氏	族出	何國郡村産
生	管	某管下國郡村番地住又ハ何某子弟妻女 族籍
典獄	(檢印)	未決者名籍
		主檢
		書記氏名印

終 結	事 變	責 保 付 釋	當 氏 談 名 官	書 信 ノ 贈 答 ヲ 許 ス 月 日	入 行 監 狀 中	教 育 門 及 宗 門
明治何年月日 又ハ他監押送	明治何年月日 病死或ハ變死或脱監	明治何年月日 保釋若クハ責付	裁置長ノ氏名死別ハ裁置長ノ外其行刑ヲ臨監セシ官又ハ氏名	明治何年月日何國某村住親屬若クハ朋友ニ書信檢	明治何年月日何ノ責罰ヲ行フ	文字ノ識ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス 何宗或ハ宗門不詳

典獄(檢印)已決囚名籍	主檢	書記	氏名印
本出生地管 何國部村産 某年某月某日生	營業ヲ詳記スハシ 父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無	乳提 何若クハ女 何若クハ男 何若クハ無	刑名及ヒ 刑所ノ月日 刑裁宣 明治何年月日何國部村ニ於テ宣旨
大犯 犯略由 數及ノ	年收 月監 日ノ	明治何年月日何國部村ニ於テ宣旨	明治何年月日何國部村ニ於テ宣旨